

詳説世界史図録 第4版

解答例・解説

p.2~3 特集 地球環境と歴史

テーマの問い 寒冷化が社会の危機をもたらしたり、人類による環境への負荷が地球の温暖化による人類の将来への危機をもたらしたりしている。

1・3 14世紀と17世紀における地球環境の寒冷化 ④ 14世紀なごころに寒冷化し、17世紀に再び寒冷化がすすんだ。生活環境の悪化は歴史に大きな影響をあたえたことが推測される。

2 テムズ川の水質汚濁 ④ テムズの主は汚れた川を表しており、ファラデーは鼻をつまみながら名刺を渡して挨拶している。

p.4~5 特集 感染症と世界史

テーマの問い 戦争や交易など人々が接触、交流した場面で病原体がうつされた。

2・1 医学の継承 ④ 古代ギリシアやローマを代表する医学者の業績を継承しながら、イスラーム医学が集大成され、これらがヨーロッパに伝えられたことを表している。

p.6~7 特集 記録の歴史

テーマの問い 多様な文字が創出され、紙や印刷術などの開発でこれらが継承されてきた。さらに写真や映像が開発され、近年、電子化によってより多様な表現や巨大な情報の保存が可能になった。

5 記録媒体の変遷 ④ 中国で開発された製紙法が世界に広まり、さらに印刷術が開発されたこと。

6 記録媒体の変遷 ④ 19世紀以降、写真や映像記録が可能となり、近年これらを電子化して保存できるようになった。

p.8~9 特集 世界の宗教

テーマの問い 信仰や儀式に独特な様式をみせるほか、食生活や芸術などにも宗教上の影響がみられる。

2 宗教と食生活 ④ 肉の摂取・調理に禁止・制限がみられている。

4 世界史における宗教 ④ 地域的に拡大するなかで分裂したり他の宗教と関連しあったりした。

p.10~11 先史の世界

テーマの問い ティグリス・ユーフラテス川流域から地中海東岸の西アジア地域。

2 先史時代の遺跡 ④ アフリカで猿人の遺跡が発見されている。

4 サハラロックアート ④ 人々とともに整然と描かれている様子から動物は家畜と考えられ、牧畜がおこなわれていたと思われる。

p.12~13 古代オリエント世界①

テーマの問い 洪水伝説、神殿建設、楔形文字、法制定など。

2 『ギルガメシュ叙事詩』 ④ 人間が森を支配し、文明化・都市化をすすめていくことを暗示していると考えられる。

3 ハンムラビ法典 ④ ⑦、⑧は民法的で市民生活を保護しようとしている。しかし⑨は刑法的であり、身分上の差別を前提に個別の罪に対応する刑を示している。

p.14~15 古代オリエント世界②

テーマの問い 霊魂の不滅を信じ、ミイラにして肉体を保存したり、死後の復活を願ったりした。

1 アトン神信仰 ④ 従来の神々は人や動物の姿で描かれたが、アトン神は日輪と太陽光線で表現された。

2 東地中海世界の諸民族 ④ 前2000年ごろと、前1400~1200年ごろに北方からの民族移動がおこった。

p.16~17 古代オリエント世界③

テーマの問い アケメネス朝はオリエント世界を統一し、ササン朝は東西文化の交流を活発にした。

3 アケメネス朝による統一 ④ ベルシス(ファールス、現在のイラン南部) **解説** イラン南部のファールス地方をギリシア人がベルシスと呼んだことに由来している。

4 パルティアとササン朝 ④ パルティアン=ショット **解説** 馬上から射るパルティアン=ショットのような騎馬術に優れていた。

4 ササン朝文化の日本伝播 ④ 弦楽器や金属・ガラス工芸品などにササン朝の影響がみられた。

p.18~19 ギリシア世界①

テーマの問い アテネでは男性市民による直接民主政が発達した。

2 シュリーマンの古代への情熱 ④ ホメロスの叙事詩『イリアス』などを読み親しみ、トロイアの実在を信じていた。

4 アテネとスパルタ ④ アテネでは市民が過半数を占めたがスパルタでは数%と少数者だった。一方アテネでは奴隷が4割以下だったが、スパルタでは隷属農民が7割以上を占めた。

p.20~21 ギリシア世界②

テーマの問い ギリシアとオリエントの東西文化の融合がすすんだ。

1 ボリスの変容 ④ アテネを盟主とするデロス同盟(薄紫部分)とスパルタを盟主とするペロポネソス同盟(薄緑部分)が30年近く戦争し、アテネは民主政が混乱し、結局敗北した。

2・1 アレクサンドロスの遠征と諸国の分化 ④ おもなアレクサンドリア市(赤丸の点)が示されている。

p.22~23 ローマ世界①

テーマの問い 元老院と平民会の法的平等を実現しつつ、実際には元老院が国政を主導し、有力者が権力を掌握した。

2・1 ローマの領土拡大 ④ ガリア、ヒスパニア、アジア、エジプト(他に、シリア、アフリカ、エビルスなどを選んでよい。)

2 グラックス兄弟の改革 ④ ローマの拡大に兵として貢献した平民が貧困化している現実を訴えている。**解説** 土地の再分配や穀物法などで平民救済をはかったが、元老院の反対にあって殺害された。

p.24~25 ローマ世界②

テーマの問い 地中海を囲む領土を実現し、インフラが整備され人々の生活が豊かになった。

3 西ローマ帝国の滅亡 ④ 商業が停滞して都市が衰退し、コロヌスの土地緊縛化とともに地方の自給自足的自立化がすす

んだ。

4・1 ローマ人の水利用 **Q** 遠方の水源地から水をひく水道橋に傾斜を設けたり、市内では貯水槽や水道管を設置したりした。

p.26～27 ローマ世界③

テーマの問い ローマ帝国内で公認・国教化され、教義を統一して異端を排除した。

1・3 キリスト教の伝播 **Q** 東方の領土での広まりが早く、大司教座も多く、宗教会議も東方で開かれた。

3 コロッセウムと剣闘士の試合 **Q** キルクスcircus(円形競技場、円形劇場)での娯楽や食料を提供することで、有力者(富裕層)が市民の支持を集め、自らの地位を高め政治的に利用しようとした。

p.28～29 インドの古典文明①

テーマの問い ヴァルナとジャーティが結びついて複雑かつ多様な社会集団が形成された。

3 ジャイナ教 **Q** 白衣の二人はマスクをし、肩にほうきをかけて歩いている。「アーヒンサー、不殺生戒」を実践するため口中に虫が入らないように、座る場所を掃いて虫をふまないようにしている。

4 日本の五重塔 **Q** 最上部にある「傘蓋」と「相輪」とが形の上で似ていて、尊いものをおさめていることを表現したと考えられる。

p.30～31 インドの古典文明②

テーマの問い 大衆の救済をとく大乘仏教が成立したが教義研究や隠遁化傾向がすすんで大衆から遊離し、ヒンドゥー教が定着していった。

2 ガンダーラ仏 **Q** 顔つきや衣のひだなどにギリシア的な特徴がみられ、ヘレニズム文化の影響を受けたと考えられる。

3 グプタ美術 **Q** 描写がなめらかで、みやびな特色がみられ、純インド的な文化が発達したと考えられる。

p.32～33 東南アジアの諸文明

テーマの問い 仏教やヒンドゥー教などインド文化の影響を強く受けてきた一方、ベトナムでは中国文化の影響を強く受けた。

2・2 港市国家のしくみ **Q** 河川や内陸への道を通じて後背地(図の黄色の部分)と結びつき、香辛料・穀物・香木・鉱産物・水産物などを掌握して輸出し、外来の輸入品を提供するなど富を分配した。

2 ボロブドゥール **Q** これらの構造物はいずれもストゥーパであり、円形に配置された小さめの構造物には内部に仏像がおさめられている。世界文化遺産としては近くの寺院と合わせて「ボロブドゥール寺院遺跡群」と呼ばれる。

p.34～35 中国の古典文明①

テーマの問い 多くの人員を動員する治水工事や北方遊牧民の侵入に軍事的に対応するため、巨大な政治権力が必要だったから。

1 草原地帯 **Q** 人口が少ない北方の草原地帯に居住する遊牧民が、南方の農業地帯への侵入や交易を通じて東アジアの歴史的な展開に大きな役割を果たした。

3 華夷の別 **Q** 周辺諸民族を軽蔑していたが、中国文化を受け入れさえすれば「中華」に加わることを認めたため、次第に中国文化圏が拡大していった。

3 殷王の墓 **Q** 副葬品等から、強力な王権が存在し、死霊の復活が信じられていたと推定される。

p.36～37 中国の古典文明②

テーマの問い 分裂の時代ではあったが、激しい競争のなかでそれぞれの地域に中央集権的な政治体制が成長し、鉄器や牛耕等の農業技術や貨幣経済が発展して新思想も現れ、のちの統一帝国の基礎が作られた。

1 春秋時代の戦車と車軸に取り付けられた青銅製の装飾 **Q** 生産力が向上した戦国時代は、大量動員が可能となり、鉄器で武装した歩兵が主力となった。

2 鉄製農具 **Q** 鋤鉄法は鋳型を使うので、鍛鉄法に比べて大量に生産することが容易であったから。

p.38～39 中国の古典文明③

テーマの問い 急激な統一政策、対外戦争、土木工事、そして法に基づく厳しい政治は人民の負担となり、征服された東方6カ国の地域で秦に対する反感が強まったから。

1 度量衡の統一 **Q** 度量衡や貨幣、車軌の統一は、流通・交易の拡大に大きな価値をもち、文字の統一とともに中国文化圏の一体化に貢献した。

2・3 封建制・郡県制・郡国制の比較 **Q** 秦の急激な中央集権化による失敗を教訓として、前漢は初期においては急激な中央集権化をさけ、封建制と郡県制を併用する郡国制を採用した。そのほか、前漢初期には秦を反面教師として、人民の負担軽減をはかり、消極的な対外政策をとった。

p.40～41 中国の古典文明④

テーマの問い 官僚制と儒学思想に支えられた皇帝統治体制であり、周辺諸国に対しても名目的な君臣関係を結んで皇帝中心の秩序のなかに組み込んだ。

1 宦官 **Q** 後宮で皇后や幼少期から皇帝に仕えているため、側近として政治上の実権を握ることがあり、後漢・唐・明などの王朝では特にその弊害が大きかった。一方、『史記』を著した司馬遷(前漢)、製紙法を改良した蔡倫(後漢)、南海遠征を率いた鄭和(明)など、歴史に足跡を残した宦官も存在した。

p.42～43 同時代の世界 2世紀の世界

テーマの問い ローマ帝国と漢(後漢)を二大勢力とし、東西間の交易活動が活発におこなわれた。

エリュトゥラー海案内記 **Q** 夏に吹く南西からの季節風(ヒッパロスの風)を利用してインドに向かった。

Q1 朝鮮半島に楽浪郡、ベトナムに日南郡を設置し、西域地方には班超が遠征して匈奴に対抗した。

p.44～45 南アメリカ文明

テーマの問い 南北アメリカ文明では金銀・青銅器は用いたが、鉄器は用いなかった。また、車輪や馬も利用されなかった。

1・2 アンデスにおける高度差利用による栽培植物の変化 **Q** トウモロコシ、ジャガイモ、カボチャ、トマト、サツマイモ、トウガラシ、カカオ、タバコ、キャッサバ、バナナ、ピーマン、ピーナッツ、天然ゴムなど。世界の食文化や嗜好品に大きな影響を与えた。例えば、イタリア料理におけるトマト、韓国料理におけるトウガラシ、ドイツ・アイルランドにおけるジャガイモなど。また、天然ゴムはタイヤの作成等その後の工業技術の発展において重要な役割を果たした。

p.46～47 草原の遊牧民とオアシスの定住民

テーマの問い 部族の連合体であり、強力な軍事力を有して統率力をもつ指導者が存在すると急速に拡大するが、指導者がいなくなったり、連合の必要がなくなったりすると分裂・消滅する傾向がある。

2 トゥルファン市内を流れるカレーズ **Q** オアシス民は、と

きには遊牧民による略奪や支配をうけたが、交易や交易路の安全確保を通して、その関係は互恵的であった。

- 6 突厥の碑文 Q** 定住生活をせず、狩猟などで日々武芸を習得して強健であること。戦いにおいて、大軍相手でも都城にこだわらず臨機応変に対応できること、など。

p.48~49 同時代の世界 5世紀の世界

テーマの問 ユーラシアでの民族移動が活発にみられ、ローマ帝国やインド・中国でも圧迫を受け、文化もこうした民族の影響がみられた。

- Q1** 異端として西方から追放されたネストリウス派キリスト教徒を保護し、ギリシア語文献などを翻訳して後世に伝えた。
Q2 鳩摩羅什は西域から渡来し、法顕は西域経由で渡印し、海路で帰国した。

p.50~51 北方民族の活動と中国の分裂

テーマの問 侵入した遊牧民は次第に漢化した。華北では西方から伝来した仏教の隆盛や胡座や椅子の使用など、遊牧民の文化を取り入れた新しい文化が生まれた。

- 3 江南の風景 Q** 華北より戦乱から逃れてきた人々が大量して江南に移住してきたから。

p.52~53 東アジア文化圏の形成①

テーマの問 598年隋で貴族の高級官職独占防止と君主権強化のために、科挙制が実施された。その後北宋の時代に3段階からなる試験が整備され(⇒本文 p.94)、元代には軽視されたとはいえ、歴代中国王朝の官僚確保の手段として運用され、1905年清で廃止されるまで実施された。

- 2 大運河 Q** 政治・文化の中心であった華北と開発がすすみ経済力が高まった江南を結ぶ交通幹線となり、以後の王朝で中国統一の基盤として機能した。

- 3・1 唐勢力の拡大 Q** 征服地に都護府を置き、実際の統治はその地の有力者に任せる羁縻政策がおこなわれた。

p.54~55 同時代の世界 7世紀の世界

テーマの問 イスラム世界が成立し、隣接する東西の地域が緊迫した情勢となった。一方、東アジア世界では唐を中心にした共通の文化世界が形成された。

- Q1** ササン朝のホスロー2世はビザンツ帝国のヘラクレイオス1世と抗争し、インドのヴァルダナ朝に対抗したチャールキヤ朝のプラケシ2世と外交関係をもった。

中国僧のインド訪問 Q 訪問した町(シュリーヴィジャヤのバレンバン)には多くの仏僧がおり、インドで学ぶこととかわりなく修行ができている。

p.56 東アジア文化圏の形成②

- 1・2 唐と周辺諸国家との関係 Q** 唐を中心とした国際性のある東アジア文化圏を形成し、官制や都城制、仏教や美術分野等で多大な影響を与えた。

p.57 東アジア文化圏の形成③

- 3 杜甫「兵車行」Q** 唐の領土拡大政策のために徴兵され、出征する農民と家族たちの兵役の苦しみをうたっている。この漢詩は杜甫(712~770) 40歳頃の作品であるが、このころから社会を批判する作品が多くなる。ちなみに唐が中央アジアの覇権を失ったタラス河畔の戦い(751)はこの詩のできるおおよそ1年前、安史の乱(755~763)勃発はその約3年後である。

p.58~59 主題学習1 時間軸からみる諸地域世界

テーマの問 時系列でできごとを整理し、それぞれの因果関係を考えること。

p.60~61 イスラム世界の形成

テーマの問 シリア・パレスチナ・メソポタミアから、東はインダス川、西は北アフリカを経てイベリア半島に至る地域に及んだ。

- 2 メディナ憲章 Q** イスラム教徒に従うのであれば、宗教と財産を保障し、不当には扱わなかった。

- 3・1 大征服の開始 Q** 聖戦への参加が天国への報酬となることを期待するとともに、莫大な戦利品を得ることができると考えた。

p.62~63 特集 イスラムの教え

テーマの問 メッカはイスラム以前より遠隔地貿易で栄え、多神教の神殿であるカーバ神殿があった地であり、ムハンマドはメッカ征服後、カーバ神殿を聖殿と定めた。メディナは、メッカでの迫害を逃れてムハンマドらが移住(ヒジュラ)し、共同体(ウンマ)を建設した。イエルサレムは、ムハンマドが一夜にしてメッカからイエルサレムへと旅をし、そこから昇天する体験をしたという地である。

- 2 預言者ムハンマドの最初の啓示 Q** 神から啓示を預かり、それを人々に伝達する預言者とされた。

- 6 金曜日の集団礼拝 Q** 夜明け・正午・午後・日没・夜半の5回おこなう。

p.64~65 同時代の世界 8世紀の世界

テーマの問 イスラム勢力に対抗しつつ東西ヨーロッパ世界が独自のまとまりをみせた。また、唐が衰退しはじめ、周辺が自立して勢力を拡大させた。

- Q1** 北方ではウイグルが強大になり、東北部には渤海が自立している。

- Q2** コンスタンティノープルやバグダードが海・川・街道などの自然条件を利用しているのに対して、長安は街路を基盤の目のように区画し、人工的・計画的な都市となっている。

p.66~67 イスラム世界の発展

テーマの問 10世紀から11世紀にかけて、カラハン朝が東・西トルキスタンに制圧してイスラム文化を導入、ガズナ朝が北インドへ侵入、セルジューク朝がアナトリアに進出するなどして、イスラム世界を拡大した。

- 1 マムルーク Q** 中央アジアに進出していたトルコ人がアッバース朝カリフの親衛隊として用いられ、後にセルジューク朝が中央アジアから西アジアに進攻したことで、イスラム世界の中心的勢力となった。

- 4 アルハンブラ宮殿2姉妹の間 Q** イベリア半島最後のイスラム政権ナスル朝の都であったグラナダ。

p.68~69 インド・東南アジア・アフリカのイスラム化

テーマの問 インドでデリーを拠点としたイスラムのデリー=スルタン朝が発展、東南アジアでスマトラ島やマレー半島のマラッカにイスラムの政治勢力が成立、西アフリカでマリ王国の支配層がイスラム教を受容した。

- 1 アイバクがたてたモスク Q** アイバクはゴール朝最盛期のムハンマドのインド遠征に付き従って北インドの支配地を任されたが、ムハンマドの死後に支配地の実権を握り、デリーにイスラム王朝の奴隷王朝をたてた。

- 3 マリ王マンサ=ムーサのメッカ巡礼(1324年) Q** 中心都市トングクトゥがサハラ砂漠を縦断する交易で栄えたから。

p.70～71 地域の視点 アフリカの歴史

テーマの問い ギニア湾岸の奴隷海岸・黄金海岸や西アフリカの大西洋岸に、ヨーロッパ諸国が奴隷買売の拠点を設置して奴隷を送り出した。

2 タッシリ＝ナジェールの岩絵 **Q** 現在はサハラ砂漠の中央部にあたり、前2500年頃から砂漠化がすすんだ地域だが、それ以前は湿潤な地域で狩猟や牧畜がおこなわれていた。タッシリ＝ナジェールの岩絵はそのことを示している。

3・1 サハラをこえる交易ルート **Q** 北からは岩塩・馬・装身具などが、南からは金・奴隷が運ばれて、ニジェール川中流域で取引された。**解説** 写真は北から運ばれた板状の岩塩。

p.72～73 イスラーム文明の発展

テーマの問い 中東の地域に古くから栄えた多様な先進文明の文化遺産と、アラブ人のイスラーム教・アラビア語が融合して生まれた都市文明であり、ギリシア文明をヨーロッパ文明に橋渡しする役割を果たした。

p.74～75 西ヨーロッパ世界の成立①

テーマの問い ビザンツ皇帝の発した聖像禁止令に反発したローマ教会は、トゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム軍を破ったフランク王国に接近し、ローマ教皇はビピンがフランク王位につくことを承認、ビピンは返礼に教皇にラヴェンナ地方を寄進した。

5 グレゴリウス1世 **Q** イングランドを中心としたゲルマン人への布教活動で成果を上げた。大教皇と呼ばれる。

7 オットー1世夫妻像 **Q** 帝国教会政策を展開してドイツの統一を推進し、マジャール人の侵入をレヒフェルトの戦いで撃退した。また、イタリア政策をすすめて北イタリアに支配を広げた。

p.76～77 西ヨーロッパ世界の成立②

テーマの問い 農民を支配する領主の所有地である荘園を経済的基盤とし、領主相互間に、主君が家臣に封土を授与して保護し家臣は主君に忠誠と軍役の義務を負うという、双務的契約に基づく封建的主従関係が成立する社会だった。

2 ノルマン人の活動 **Q** 帆を装備して河川航行、大洋航海とも可能な快速軍船の開発がなされていた。また、吃水が浅く河川を内陸深く遡行することができ、敏速な奇襲戦法を取ることができた。

p.78～79 東ヨーロッパ世界の成立

テーマの問い ビザンツ帝国がローマ帝国の伝統を継承し、皇帝は政教両面の最高権力者として専制支配を維持した。一方、スラヴ系民族がビザンツ文化の影響の下で自立し、ビザンツ帝国とともにギリシア＝スラヴの世界を形成した。

2 ユスティニアヌス大帝 **Q** 『ローマ法大全』を編纂し、ビザンツ様式の代表であるハギヤ＝ソフィア聖堂を建立した。

4 バトゥのキエフ占領 **Q** 13世紀半ばから15世紀後半までの約250年間。ロシアではモンゴルの支配下に置かれたことを「タタールのくびき」と呼ぶ。

p.80～81 同時代の世界 11世紀の世界

テーマの問い 諸地域の自立がすすんだ時代である。また、ヨーロッパやイスラーム世界ではそれぞれ封建化がみられ、日本でも武士政権の成立によって同様の動きがあった。

Q1 セルジューク朝やファーティマ朝に対する十字軍と、ムラービト朝に対するイベリア半島でのレコンキスタがあげられる。

李朝大越国の自立 **Q** 儒教文化をもとに科挙を実施し官僚制度

を整えたことがわかる。

p.82～83 西ヨーロッパ中世世界の変容①

テーマの問い 地中海商業圏では、イタリアの港市が東方の奢侈品を扱う東方貿易を展開した。北ヨーロッパ商業圏では、北ドイツ諸都市が生活必需品を取り引きした。

2 イエルサレムを征服した十字軍 **Q** 神が望んだことだ、として、イエルサレムのムスリムたちを残酷に殺害した。**解説** 殺害されたムスリムの血は、騎乗した十字軍の兵士の膝や手綱まで染めるほどで、イエルサレムの市内は屍でみち、血であふれていた。

3 ヴェネツィアの繁栄 **Q** 港市のジェノヴァ、ピサ、内陸都市のミラノ、フィレンツェなどがある。

p.84 西ヨーロッパ中世世界の変容②

テーマの問い 宗教面では教皇権が失墜し、政治面では諸侯騎士が没落して王権が強化され、経済面では都市・商業が復活し荘園制が崩壊した。

1 ジャックリーの乱 **Q** ジャックとさげすまれた農民たちが、農具を手に騎士(封建領主)を襲撃する光景を描いている。

p.85 特集 カトリック教会と修道院

テーマの問い クリュニー修道院を中心にすすめられ、聖職売買や聖職者の妻帯を禁止し、聖職叙任権を世俗権力から教会の手に移そうとした。

4 修道士の生活 **Q** 土地の開墾、森林の開拓、湿地の干拓などの技術を開発したくわえていった。

p.86～87 西ヨーロッパ中世世界の変容③

テーマの問い 英仏両国間に大陸のフランドル地方とギエンス地方をめぐる争いがあったこと、イギリスのエドワード3世がフランス王位の継承権を主張したこと。

4 大憲章 **Q** 新たな課税をする場合には王国全体の協議と承認が必要であるとした。

p.88 西ヨーロッパ中世世界の変容④

テーマの問い 大諸侯の勢力が強く、自由都市も独立勢力となったが、神聖ローマ皇帝はイタリア政策を推進して国外で過ごすことが多かったから。

1 スペインのユダヤ教徒追放(1492年) **Q** ユダヤ教徒はキリスト教信者をカトリック信仰から引き離し、墮落させ、彼らの邪悪なる信仰に引き入れようとしているとされたから。

p.89 西ヨーロッパの中世文化①

1 フォントネーの修道院 **Q** ベネディクトゥスの戒律の厳格な励行、質素な生活、荒地の開墾などにつとめ、12～13世紀の大開墾時代にはその先頭に立った。

p.90～91 西ヨーロッパの中世文化②

テーマの問い 11～12世紀に重厚な印象を与えるロマネスク様式が現れ、12世紀には空高くそびえる塔をもち、広くなった窓をステンドグラスで飾るゴシック様式が現れた。

1・2 中世創設の主要大学 **Q** 12世紀に、パリ大学を去った学生により設立された。ロジャー＝ベーコンやウィクリフらが在籍した。

2 ロマネスク様式 **Q** ラテン十字形のバシリカ式に重厚な切り石積みを採用し、石造の半円筒アーチを多用する。建物内部は一般に暗く、全体に重厚な印象を与える。

p.92 トルコ化とイスラーム化の進展

2 ソグド人の習慣 **Q** この文章で会話による取引の才覚を重視しているように、商業活動に優れた民族であった。**解説** ソグド人はイラン系民族で、ブラハやサマルカンドなどのオアシスに居住し、遊牧国家や隋・唐国内に集落をつくって中継貿易をおこない、ユーラシア東西を結ぶ交易ネットワークを構築した。

p.93 東アジア諸地域の自立化①

東アジアの様々な文字 **Q** 中国に対する民族意識の高まりと国威の高揚を示している。

p.94～95 東アジア諸地域の自立化②

テーマの問い 北方民族の圧迫からくる国防費の増大と歳幣の支払い、そして文治主義による官僚制の肥大化による財政難が背景にあった。そのめざすものは、農民や中小商工業者の生活の安定と生産増加をはかりながら、同時に経費節約と歳入増加による国家財政の確立と軍事力の強化をめざす富国強兵であった。

8 羅針盤 **Q** 印刷術と火薬。唐代に木版印刷が発明され、宋代に普及し、活字印刷術も発明された。火薬も唐代に煉丹術の副産物として発明されたといわれているが、実用化したのは宋代である。もっとも、実際に殺傷用として使用した記録があるのは金においてである。いずれもムスリム商人によってヨーロッパに伝わり、世界の歴史に大きな影響を与えた。
(⇒本文 p.133)

p.96～97 モンゴルの大帝国

テーマの問い ユーラシア大陸全域をほぼ支配したモンゴル帝国によって、駅伝制(站赤 ジャムチ)がおかれ、東西の交通網が整備されて治安の安定と交通の利便性が確保されたため、陸上・海上交易が活発化し、東西の異なる文化の交流が盛んになった。

4 元の支配構造 **Q** 中国の伝統的な官僚制度は採用したが、政策決定は主にモンゴル人によっておこなわれ、色目人が財務官僚として重用された。また、武人や実務官僚が重視され、科挙が軽視されたため、儒学等の古典につづいた士大夫層が官界で活躍する機会は少なかった。

5 元の染付 **Q** シルクロードによってイスラーム世界からもたらされた。

p.98～99 同時代の世界 13世紀の世界

テーマの問い ユーラシアではモンゴルが覇権にぎり、イスラーム世界、ヨーロッパ世界、東アジア・東南アジア諸地域で緊迫した情勢となった。

Q1 フビライは国書をもたせた使節を派遣していた。

Q2 モンゴルのハンに面会したり事情を調査したり、キリスト教を布教しようとした。

p.100～101 主題学習2 空間軸からみる諸地域世界

テーマの問い 彼が大旅行をおこなった14世紀前半のイスラームネットワークでは旅人の便宜を図る施設などが設置されており、彼はそうした施設などを利用して旅を続けていた。

p.102～103 明代の中国と隣接諸地域

テーマの問い 元がモンゴル人の支配の下、積極的にユーラシア広域にわたる貿易をおこない、商人を重用したのに対して、明は漢民族による中華帝国をめざし、海禁政策をとり冊封・朝貢貿易体制を築き、農民支配を固めて財政の基盤を確立した。

1 六諭 **Q** 教育勅語 **解説** 『六諭衍義』はその解説書で琉球を通じて江戸期の日本に伝わり、のち寺子屋の教科書として普及し、さらに明治に入って教育勅語の成立に影響した。

2・2 コロンブスの旗艦帆船サンタ＝マリア号と鄭和の旗艦宝船の大きさ比較 **Q** 約5倍。**解説** 鄭和の宝船は全長120m、コロンブスのサンタ＝マリア号は25.5mであった。

p.104～105 同時代の世界 15世紀の世界

テーマの問い 明の海洋進出が朝貢貿易をうながしたこと、オスマン帝国のヨーロッパ進出がすすんだ一方で、西ヨーロッパでは王権による国家統合がすすんだ。

Q1 ティムールはモンゴル帝国の後継を自負したのでモンゴル高原をめざし、元を滅ぼした明への報復も宣言していた。

Q2 沿岸航路にたよらず、天文航海をおこなっていた。

p.106～107 特集 銀による世界の結びつき

テーマの問い スペインやポルトガルの貿易船は銀とキリスト教宣教師と火器の技術をもってアジアに来航し、新しい勢力の台頭をもたらした。一方ヨーロッパには、主に中国の茶の文化、美術・工芸、思想が流入し、17世紀後半から18世紀には一種の中国趣味(シノワズリ)の流行がみられるようになった。

1・1 日本とフィリピンから中国へ流入した銀の推計 **Q** 鎖国政策をすすめていた江戸幕府は、1635年日本人の海外渡航・帰国を禁止、39年ポルトガル船の来航を禁止、41年にオランダ商館を出島に移し、鎖国体制を完成した。

4 ブルー＝オニオンの意匠 **Q** 石榴や桃の形が様式化したものの。**解説** ブルー＝オニオンは実は「オニオン」ではなく、石榴や桃であるという。石榴は多産、桃は長寿・繁栄の象徴。中国のめでたい紋様がヨーロッパに伝わり様式化し、玉葱形になったとされる。

p.108～109 地域の視点 朝鮮半島の歴史

テーマの問い 時に対立・抗争することもあったが、朝鮮側から中国の王朝に朝貢して冊封をうけていた。

2・3 新羅の骨品制 **Q** 骨品は官職と密接に結びついており、中央官庁の長官や軍団の將軍などは真骨が独占した。

4 李成桂 **Q** 首都を開城から漢城(現在のソウル)に移し、景福宮や官庁などを設置して都の基礎を固め、儒教を国教に定めた。

p.110～111 清代の中国と隣接諸地域

テーマの問い 清朝は、漢民族を威圧策と懐柔策を用いて巧みに統治した。また、版図を直轄領と間接的に統治する藩部に分けて統治し、周辺諸国とは形式的な君臣関係を結び属国(朝貢国)とし、軍事力を背景に国際秩序を築いた。

2 晏茶羅に描かれた清朝皇帝 **Q** 乾隆帝 **解説** 乾隆帝は18世紀半ばに東トルキスタン全域を占領し、清朝の最大領域を支配下に置いた。まさにユーラシアの帝国の皇帝であった。

3・1 江戸時代の対外交4ルート **Q** 日本は清朝と正式の国交をもたなかったが、長崎の唐人屋敷で中国人商人の交易をゆるすほか、オランダ・琉球・朝鮮を通じて交易をおこなった。

p.112～113 特集 明清時代の社会と文化

テーマの問い 16世紀以降、ヨーロッパとの貿易などによりメキシコ銀・日本銀が流入し、税の銀納化がすすみ、明末には一条便法が実施された。さらにトウモロコシ・サツマイモなどの新作物の導入で人口が増大し、清の時代には18世紀初めから地丁銀制が導入され、税制から人頭税が消滅した。

3・2 明清時代に把握された人口の推移 **Q** 人頭税が消滅したこともあり、それまで税から逃れていた人々が戸籍登録をおこ

なうようになり、以後、統計上の人口が急増した。

- 4 清代の洋風の連瓶** **Q** ヨーロッパ人の来航にともない、清代には明以来の赤絵・染付のほかに、おもに輸出用として西洋人好みの磁器(洋彩)がつくられた。

p.114~115 トルコ・イラン世界の展開

テーマの問い スンナ派イスラームの盟主であるだけでなく、デウシルメ制でヨーロッパのキリスト教徒の子弟によるイエニチュエリを編制するなど、多民族国家として多様な民族を登用し、ミット制により多文化・多宗教の共存を認め、経済的にも繁栄した。

- 3 山を登るオスマン艦隊** **Q** コンスタンティノープルは難攻不落の都として知られ、城壁と金角湾を塞ぐ防鎖によって守られていた。メフメト2世は陸に続く西側の城壁を攻撃したが十分に崩すことができず、そこで敵の心臓部である金角湾に艦隊を入れるために、金角湾の北側の陸地に樹脂を塗った板で道を造り、それを使って艦隊に山を登らせ、70隻もの船を金角湾に移す作戦に出たのであった。

- 5 アッパース1世** **Q** アッパース1世が即位したとき、サファヴィー朝は西のオスマン帝国、北のウズベク族が攻勢をかけてきたため危機に瀕していた。アッパース1世は王の常備軍として、それまでのトルコ系遊牧民兵に頼らずに、定住民による銃兵と砲兵を中心にする新軍を組織し、ウズベク族を征討、オスマン帝国よりアゼルバイジャン・イラクを奪回、イギリスと結んでポルトガル人をホルムズ島から駆逐した。

p.116~117 特集 近世イスラームの大都市

テーマの問い それぞれの地域の文化とイスラーム文化が融合した高度なイスラーム建築が現存し、現在もそれらに隣接した広場、バザール、商店街などに人々の賑わいがみられる。

p.118~119 ムガル帝国の興隆と東南アジア交易の発展

テーマの問い ムガル帝国は、アクバル帝がジズヤを廃止するなど、イスラーム教徒とヒンドゥー教徒の融和をはかる政策によって繁栄していった。しかしアウラングゼーブ帝が再びジズヤを復活させるなどスンナ派イスラーム教の政治がおこなわれるようになると、ヒンドゥー勢力の反発・離反を招き、衰退のきざしが表れるようになった。

- 2 南インドのヴィジャヤナガル王国** **Q** **解説** それまで王国はインド洋交易によってアラブ商人から軍馬を手に入れていたが、ポルトガル商人がゴアに商館を設けると、彼らから手に入れるようになった。ポルトガル商人はホルムズから軍馬を運び、王国に供給した。

- 7・1 16~17世紀の東南アジア** **Q** 明の海禁政策により、16世紀の東アジア海域では、日本を含む中国・朝鮮・琉球・ベトナムの人々が国の枠を超えて中継貿易をおこなっており、ヨーロッパ人もこの中継貿易に参入してきていた。日本人の海外進出も豊臣政権期よりさかんで、東南アジアに渡航する商人たちが多かった。彼らはおもに東南アジアで中国船と出会貿易をおこない、また南洋貿易もさかんであった。17世紀、幕府が彼らに朱印状を与え海外渡航を許可し、朱印船貿易がさかんになると、海外に移住する日本人も増え、南方の各地に自治制をしいた日本町がつくられた。なかにはアユタヤ日本町の長、山田長政のように、タイのアユタヤ朝王室に重く用いられる者もいた。朱印船の最重要輸入品は中国産生糸、最重要輸出品は銀であった。

p.120~121 地域の視点 東南アジアの歴史

テーマの問い インドからヒンドゥー教や上座部仏教・大乘仏教が伝来し、アラブ商人らの来航に伴いイスラーム教が伝わっ

た。また、スペインの植民地支配によりキリスト教も広まった。

- 2 ブッダ坐像** **Q** 6.5km四方の都バガンには3000におよぶ仏教建築が現存している。
- 3 女神デーヴァター像** **Q** 彫りが深く柔和な表情をした女神像で、「東洋のモナ・リザ」と形容されている。

p.122~123 特集 地図にみる世界認識の変遷

テーマの問い インド洋が閉じられていたり、南方に未知の大陸が描かれたりしてきた。

- 2 ポルトラーノ図** **Q** 港にコンパスをおき、方角やルートが確認できるように放射状に16~32本の線が記されている。また、沿岸部の地名が詳細に入っている。

- 3 マテオ=リッチの「坤輿万国全図」** **Q** 東南アジアや日本、および北米西北部が不正確で、南方には巨大な大陸(古来「南方の未知の大陸」と呼ばれていた)が描かれている。

p.124~125 同時代の世界 16世紀の世界

テーマの問い 明・ムガル帝国・オスマン帝国などアジアの専制王朝が繁栄した一方、ヨーロッパ勢力がアジア・新大陸に直接進出するようになった。

- Q1** ルターの宗教改革やフランス王との対立に直面するなか、スレイマン1世によるウィーン包囲を受けた。

- Q2** モンゴルのアルタン=ハンによる北からの圧力があり、豊臣秀吉による朝鮮出兵に対応をせまられた。

ラブラブを称える碑文 **Q** 1521年4月27日、ラブラブらはスペイン人侵略者を撃退し、指導者マゼランをここで殺した。こうしてラブラブはヨーロッパの侵略に抵抗した最初のフィリピン人となった。

p.126~127 ヨーロッパ世界の拡大

テーマの問い ヨーロッパではアメリカ大陸からの銀の流入で物価が騰貴し(価格革命)、商業や貿易の中心が地中海から大西洋沿岸に移った(商業革命)。一方、アメリカ大陸はスペイン人らによって征服され、先住民の人口は激減し、根本的につくりかえられた。また、アメリカ大陸原産の作物がヨーロッパやアジアに広がっていった。

- 4 コロンブスのサンサルバドル島上陸** **Q** コロンブスが、十字架を立ててこの島をスペインの領土であると領有宣言したことを表している。スペイン・ポルトガルの新航路開拓がキリスト教布教の情熱と一体化したものであることがうかがえる。

- 5 アメリカ大陸とヨーロッパの交流** **Q** 鉄器をもたず大型獣のいなかったアメリカ大陸の文明を、スペイン人の征服者たち(コンキスタドレス)は馬の機動力と銃で征服した。また彼らは、持ち込んだサトウキビの生産に先住民を労働力として用いた。先住民のインディオの人口減少はこのような過酷な労働だけでなく、同時にヨーロッパから持ち込まれた天然痘・インフルエンザなどの伝染病にも起因している。彼らは失われた労働力を補うためにアフリカから黒人奴隷を輸入するようになった。一方アメリカ大陸から流入した栽培植物は、ヨーロッパ人の食生活に変化をおこし、サツマイモ・トウモロコシ・トマト・ジャガイモ・トウガラシなどが食卓にのぼるようになった。とくにビタミンを多く含むトウガラシは安価で、貴重なスパイスのひとつとなった。アメリカ大陸からのこれらの栽培植物は、ヨーロッパ人の植民活動とともに世界に広まり、とくに乾燥に強いトウモロコシやジャガイモは世界各地に広がり、世界の食生活を変化させた。また梅毒はアメリカの風土病といわれ、コロンブスによってヨーロッパにもたらされ、その後、世界に広がったといわれている。

p.128~129 ルネサンス①

4・3 文学—ダンテ『神曲』 **Q** カトリック的思想体系に基づきながら古典古代やイスラーム教徒にも評価を与えている点、美しい自然描写、ラテン語ではなくイタリアのトスカナ方言で書かれていることなどにルネサンスの先駆者としての特色がみられる。

4 マキアヴェリ **Q** イタリアは中世以来、小国に分裂した状態が続いており、この時代はイタリア戦争(1494~1559)中で、フランス・神聖ローマ皇帝・スペインなどがヨーロッパの覇権をめぐって争っていた。そのような大国に翻弄されるイタリアの現実を踏まえて、マキアヴェリは『君主論』を著わし、君主権の強化とその方法を論じた。当時の分裂したイタリア内では勢力均衡の立場で同盟外交が展開され、互いに外交官を常駐させ、小さな「国際社会」が成立していた。これはのちの主権国家体制の先駆けであり、マキアヴェリは政治を宗教・道徳から切り離したことで近代政治学の祖と評価されている。

p.132~133 ルネサンス③

1・2『カンタベリー物語』 **Q** イタリアのフィレンツェ出身の人文学者ボッカチオが14世紀の中頃に著わした短編小説集で、最初の近代小説といわれる。当時大流行したベストから逃れるため、フィレンツェ郊外の教会にたまたま落ち合った男女10人が退屈しのぎに話をするという設定で、10日間で100の物語が語られる。登場人物の赤裸々な打ち明け話には、ユーモアや風刺、恋愛などの人間くさい描写があり、ダンテの『神曲』に対して『人曲』とも呼ばれる。

2 ガリレイの『二大世界体系対話』 **Q** 中央がプトレマイオス、左がアリストテレス。 **解説** この書では、プトレマイオスの天動説とコペルニクスの地動説について、ガリレイの代弁者である地動説派と天動説派のアリストテレス主義者、その間をとりもつ良識派の3人が論じる形式で地動説の優越性が説かれた。

p.134~135 宗教改革

テーマの問い 宗教改革はカトリック教会の影響下から自立したい国家や各階層を突き動かし、ヨーロッパ各地で宗教対立・宗教戦争を引き起こすに至った。それらはヨーロッパ諸国の権力闘争に発展し、その過程において諸国の主権国家化が促されていった。

5 教皇にイエズス会創設の請願書を提出するイグナティウス＝ロヨラ **Q** イエズス会は、スペイン語で「イエスの軍隊」の意で、対抗宗教改革の尖兵として1540年に教皇パウルス3世によって公認された。布教については教皇への絶対服従を誓った。その組織を運営するため軍隊的な規律と、司祭になるための長期にわたる修練とが要求された。南ドイツのカトリックを回復し、アジア・ラテンアメリカへ宣教師を派遣した。

p.136 イタリア戦争と主権国家体制

テーマの問い ヨーロッパではイタリア戦争をきっかけに、一国の強大化をふせぐ勢力均衡の考えが誕生し、国家相互の同盟関係の形成が開始された。同時に、イタリア戦争、それに続く宗教戦争など、戦争状態の長期化と軍事技術の進歩(軍事革命)にともない、国内の統一的支配を強める必要が生まれ、国王による国家統合がすすんだ。こうして一定の領域で主権をもつ国家が生まれ、主権国家の形成期には絶対王政と呼ばれる国王による強力な統治体制が生まれた。

p.137 スペインの全盛期とオランダの独立

テーマの問い オランダは造船業の発展によりヨーロッパの海運

を圧倒的に支配し、中継貿易で繁栄した。17世紀に入るとアジアに進出しポルトガルにかわって香辛料貿易を独占、鎖国体制の日本とも貿易を許され、アジア内貿易に参入した。また北米大陸にも進出し、首都アムステルダムは世界商業・金融の中心地として繁栄した。

p.138~139 イギリス革命と議会政治の確立

テーマの問い 絶対王政を排除し、「国王は君臨すれども統治せず」と表せられるように、議会主権の立憲政治が確立していった。

3 エリザベス1世 **Q** 画面左の背景はアルマダの海戦の様子を、右は難破するスペイン艦隊を描いている。(→本文 p.124)

5 ランプ議会の解散 **Q** 長老派が追放された議会は60人ほどの独立派議員だけとなり、尻肉や残り物を意味するランプ議会(残部議会)と呼ばれた。

p.140~141 フランスの宗教内乱とルイ14世の時代

テーマの問い ルイ14世は自身を神格化し、ヴェルサイユ宮殿を拠点に貴族を従属化した。また、財務総監のコルベールの下重商主義政策をおしすすめ王権を強化、「自然国境説」を主張して侵略戦争をおこし、領土拡大を強行した。

2 ナントの王令 **Q** 新教徒には武装拠点「安全保障地」が許された。また、信仰の自由、限定された場での礼拝の自由、公職就任の承認、新旧両派からなる「合同法廷」が認められた。しかし徐々に形骸化し、1685年にはルイ14世によって廃止された。

p.142~143 17世紀の危機と三十年戦争

テーマの問い 神聖ローマ帝国内での新旧両派諸侯間の宗教対立から戦いが始まったが、やがて新教国デンマーク・スウェーデンが新教側援助を名目に参戦して国際戦争に拡大した。しかし最後の段階で、旧教国フランス(王位はブルボン家)が旧教側の中心である神聖ローマ帝国(皇帝位はハプスブルク家)打倒のために新教側に立って参戦したため、戦争の宗教的性格が薄れ、国家間の勢力争いの性格が前面に出てきた。講和会議は総勢150名の代表が集まり、初めての国際会議といわれ、オスマン帝国も使節を送り、ローマ教皇の使節も一代表として参加した。また、この会議で締結されたウェストファリア条約で帝国内の領邦にほぼ完全な主権が認められ、神聖ローマ帝国は有名無実化した。こうして中世以来ヨーロッパの秩序を支えてきたローマ教皇と神聖ローマ帝国の権威は完全に衰え、かわって主権国家による国際関係が成立した。

p.144 プロイセンとオーストリア

テーマの問い プロイセンがヨーロッパの強国の地位につくことになり、オーストリアのハプスブルク家が長年敵対してきたフランスと同盟を結ぶ(外交革命)など、ヨーロッパの国際関係に大きな変化が生じた。また、両戦争に介入し敵対して戦ったイギリスとフランスは、並行して北米大陸・インドでも植民地戦争を戦い、七年戦争の終結とともにイギリスが勝利した。

2 18世紀半ばのプロイセン・オーストリア **Q** シュレジエンはプロイセンにとって重要なオーデル川の上流にあり、鉱業が盛んで、手工業が発達し、人口も多く豊かな土地であった。現在はポーランド領。

p.145 北方戦争とロシア、ポーランドの分割

テーマの問い ピョートル1世率いるロシアがカール12世のスウェーデンに挑んだ北方戦争(1700~21年)の本質は、バルト海の覇権をめぐる重商主義戦争であった。この戦争での勝利

は、ロシアの大国化の契機となった。

- 4 ポーランド分割** **Q** エカチェリーナ 2 世 **解説** ロシアのエカチェリーナ 2 世は第 1 回分割(1772年)、第 2 回(1793年)、第 3 回(1795年)のすべてのポーランド分割に参加した。

p.146～147 地域の視点 ポーランドの歴史

テーマの問い 18世紀末のポーランド分割でロシア・オーストリア・プロイセンの支配下に置かれ、19世紀に入るとナポレオンの支配を受け、次いでロシアの支配下に置かれた。第一次世界大戦後独立を達成したが、第二次世界大戦の勃発でソ連とドイツによって分割された。

- 2・3 シュラフタ民主政** **Q** 西は神聖ローマ帝国・ハンガリー王国、東はロシアに接し、北はバルト海に面し、南は黒海に迫る勢いであった。

- 3 憲法を与えるナポレオン** **Q** 1807年にナポレオンがプロイセン・ロシアと結んだティルジット条約で、プロイセン領であったポーランドにワルシャワ大公国の成立を定めた。

p.148～149 地域の視点 イベリア半島の歴史

テーマの問い 西ゴート王国がイスラーム軍により滅ぼされ、その後イスラーム勢力の支配を受けたが、キリスト教勢力がレコンキスタでイスラーム勢力を追放し、半島はスペインとポルトガルの 2 国体制となった。

- 2 コルドバのメスキータ** **Q** 平面が136m×186mで、1000本の円柱が林立する巨大な祈りの殿堂である。数万人を一度に収容できるといわれる。

- 4 16世紀セビリアの賑わい** **Q** アメリカ大陸から運ばれた大量の銀や金はまずセビリアにもち込まれたため、セビリアは大いに栄えた。

p.150～151 同時代の世界 18世紀の世界

テーマの問い 世界商業時代となり、イギリス・フランスを中心に植民地獲得競争が激化していった。

- Q1** フランス領が失われ、イギリス・スペイン両国が領土を分けあった。

イギリス東インド会社による中国茶の輸入量の変遷 **Q** 18世紀末近くになって(1785年ころから)茶の輸入量が急増したことから、イギリスで紅茶文化が普及したことが推測される。また、同時に輸入元として中国の割合が圧倒的になった。

p.152～153 重商主義、ヨーロッパ諸国の海外進出

テーマの問い インド航路を開拓したポルトガルは16世紀前半、ヨーロッパの香辛料貿易を独占して繁栄し、16世紀後半になるとアメリカ大陸に植民し銀をヨーロッパに輸出したスペインが台頭した。17世紀に入ると海運業が発展したオランダがヨーロッパの中継貿易で繁栄、しかし17世紀末にはインドを拠点に活発な通商活動をおこなうイギリスが3回のイギリス＝オランダ戦争を通じて世界貿易の覇権争いで優位に立った。フランスはこれに対抗し、両国は海外でも勢力争いを繰り広げた。17世紀末から18世紀中ごろにかけて、イギリスとフランスはヨーロッパでの戦争と並行してインド・北米大陸で激しく争い、七年戦争の終結(1763年)とともに、イギリスがこの植民地争獲得競争に勝利した。

- 3 1763年の世界** **Q** イギリスがフランスとの植民地戦争に勝利した年。1763年のパリ条約の締結によりフランスは北米大陸の植民地を失い、イギリスはカナダ・ミシシッピ川以東のルイジアナ・フロリダを獲得、インドにおいてもイギリスはフランスの勢力を駆逐した。

p.154～155 特集 砂糖からみた世界史

テーマの問い 砂糖は食生活をうるおし、貿易を活発化させてきた一方で、奴隷問題やカリブ海域の経済が砂糖に依存する問題などを生じさせた。

- 3 砂糖の効能** **Q** 眼病や呼吸器疾患に効く薬と考えられていた。

- 3・3 イギリスの輸入品と輸入元の変化** **Q** 1. 3.8倍(4倍近く) 2. 茶、穀物 3. 新世界およびアジアがおもな相手となった。

p.156～157 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会①

テーマの問い 17世紀の「科学革命」の時代は近代科学の基礎を築き、産業革命期の技術革新を準備し、18世紀に芽生えた新しい社会思想は啓蒙の時代を準備し、18世紀後半から始まる市民革命・近代市民社会の形成に影響を与えた。

- 4 ボンパドゥール夫人** **Q** 啓蒙思想に基づく百科事典で、科学・技術や哲学・思想・宗教などを紹介した。フランスの人文主義者ディドロと数学者グランベールが主に編集し、1751～72年にかけて刊行された。執筆するにはヴォルテール、ルソー、モンテスキューなども名を連ね、執筆・刊行に協力したフランスの啓蒙思想家たちは「百科全書派」と呼ばれる。ボンパドゥール夫人の肖像画に書き込まれるということは、夫人が百科全書の出版を公に保護していたことがうかがえる。

p.158～159 17～18世紀ヨーロッパの文化と社会②

- 1・2 ロココ調の調度品** **Q** ジャパン。日本の漆器・蒔絵はロココ時代にヨーロッパで流行し、マリ＝アントワネットも収集していたことでも知られる。(⇒本文 p.107)

p.160～161 産業革命①

テーマの問い イギリス産業革命は綿工業から始まり、関連産業である鉄鋼業や石炭業、物資運搬のための交通網や交通手段の発展をもたらした。その一方で子どもを含めた労働問題や公害などの問題も発生した。

- 3・1 「雨、蒸気、スピード、グレートウェスタン鉄道」** **Q** 蒸気機関車が活用されるようになったこと。蒸気機関とそのスピード感などから、近代化されていく社会の変化を感じることができよう。このターナーの絵画には、雨のなか、テムズ川にかかる橋の上で蒸気機関車が迫り来る様と、その前を必死で走る野ウサギの姿が描かれている。

p.162 産業革命②

- 1・1 家計簿からみた19世紀前半のイギリス人の生活** **Q** 1. Aと比較すると、Bは食事内容の品目数が多く、バリエーションがある。またエンゲル計数がAは非常に高い。また、その他の項目と比較しても、生活レベルの差や衛生面での差がある。2. 茶は中国産やインド産などと想定され、砂糖は西インド諸島からのものと想定される。**解説** A労働者の家計簿とB中流家庭の家計簿を比較すると、品目数からの生活レベルの違いに加え、衣料や石炭・石炭などにかけた金額から、部屋の明るさやあたたかさ、衣服などの清潔さにも違いがあったと考えられる。また、家計簿にある紅茶や砂糖は輸入品であり、大英帝国の広がりも感じることができる。

- 1・2 児童や女性の労働実態** **Q** 子どもたちは炭鉱や工場で労働力として酷使された。その背景には、賃金が安いことや、体の小ささから炭鉱で使いやすいこと、事業主からすれば、大人に比べて扱いやすいことがあげられる。**解説** 児童労働問題が注目されると、1833年の工場法(一般工場法)で幼児労働の禁止や18歳未満の少年労働に対する保護(長時間労働の禁止)が規定され、ロバート＝オーウェンの主張する工

場監察官の設置も定められた。だが、炭鉱労働の調査は遅れ、上記の資料にある報告書の調査もあって1842年の鉱山法で鉱山・炭鉱での女性や児童の雇用が禁止された。

p.164~165 アメリカ独立革命

テーマの問い イギリスの一植民地であったアメリカ合衆国が独立したことは、植民地が独立できる点のみならず、アメリカ独立宣言で基本的人権・人民主権・革命権を提起したことにより、その後の国家の在りように影響を及ぼした。

3 印紙法に反対する人々 印紙法に対し、「代表なくして課税なし」、つまり自分たちの代表者がいないイギリス本國議会が、13植民地に課税はできないという論理で反発した。

4・1 「コモン＝センズ(常識)」 植民地の人々の独立の機運を高めることとなった。**解説** トマス＝ペインは『コモン＝センズ』のなかで、イギリスの世襲君主政の不合理を批判して、植民地独立の決断をうながした。このパンフレットにより、共和政の原理が植民地に浸透した。

p.168~169 フランス革命

テーマの問い アメリカ独立革命の主体が比較的豊かな市民層、男性だったのに対し、フランス革命はラファイエットら自由主義的貴族からサンキュロット、女性たちを含めた様々な人々が動かしだともいえる。フランス人権宣言や、自由・平等・友愛の精神、合理的な尺度として研究されたメートル法など様々なものが世界にもたらされた。

p.170~171 ナポレオン時代①

テーマの問い ナポレオンのヨーロッパ大陸制圧により、フランス革命の理念やフランス人権宣言などのフランス革命で培われたものがヨーロッパに広がった。

p.172~173 ナポレオン時代②

テーマの問い ナポレオンのヨーロッパ大陸制圧に対して、スペイン反乱など諸外国の反発や、フィヒテの「ドイツ国民に告ぐ」などの演説、プロイセン改革などのナショナリズムの萌芽がみられた。また、フランス内部でも、戦争続きの状況に対する反発から、ナポレオンから人々の心が離れていったと思われる。

3 ティルジット条約とロシア・プロイセン この風刺画の背景には、ティルジット条約でロシアは大陸封鎖令に参加することとなり、プロイセンは国土の半分以上を失ったうえ、多額の賠償金を支払うこととなったことがあげられる。

p.174~175 ウィーン体制と諸潮流①

テーマの問い ウィーン体制は、正統主義(フランス革命前の状況を正統とみなす)と勢力均衡を基盤とする大国の利害一致で形成されたウィーン会議の決定事項を基盤とする国際秩序であるが、支配層が一方的に決めた体制であり、フランス革命やナポレオン時代を受けて広がった自由主義やナショナリズムを配慮したものではなかった。そのため、七月革命、二月革命と大きな反発を受け、最終的には、国家は支配層が好き勝手できるものではなく、被支配層、民衆への配慮が必要であることを支配層に認識させることとなった。

1 ウィーン会議の風刺画 オーストリアがロンバルディア・ヴェネツィアを、ポーランド王をロシア皇帝が兼任するなど、正統主義を原理としつつも、大国の利害一致・勢力均衡の観点から妥協が図られた。

3 「民衆を導く自由の女神」 七月革命の栄光の3日間を題材にした、ロマン主義画家ドラクロワの作品。トリコロール(三色旗)を掲げて民衆を導く自由の女神を中心に、右横には

二丁の拳銃を持つバリの腕白小僧、左横にはドラクロワ自身とされるシルクハットの男性、その足元には自由のための戦いで死者が描かれている。実際には、ルイ＝フィリップが即位して王政となり、導入された選挙も財産による制限選挙であったため、政治(七月王政)が民衆のものとはならなかった。

p.176 ウィーン体制と諸潮流②

1 「普遍的な民主的かつ社会的な共和国協定」 自由の女神に諸国民が集まったり、王冠が打ち捨てられていたりしていることから、国は王侯貴族のものではなく、民衆・国民のものであるという認識の広がりや表現している。二月革命(1848年)のおこったフランスをはじめ、自由の女神のもとに集まるヨーロッパの諸国民。その手前には王冠などが捨てられ、空にはイエス＝キリストの元に革命の殉死者たちが集まっている。だが、のちに王権と保守勢力は巻き返しに転じた。

1 「ガルガンチュア」 七月王政下では、民衆から重税を集める一方で、豊かな階層のみにしか選挙権や特権が与えられていなかったことを批判している。**解説** ルイ＝フィリップが、ラブレールの小説の主人公ガルガンチュアそっくりに、一般民衆から搾取した税金をむさぼり、そのルイ＝フィリップの排泄物(勲章や任官状、特権など)を議員たちがむらがり奪いとっている。「民衆を導く自由の女神」(⇒本文 p.175)が描き出す理想とは異なり、七月王政下では、大金を支払うことのできる特権階級のみしか議員になれず、財産による制限選挙がなされていた。その社会のひずみを鋭く風刺したドミニエだったが、この作品で有罪判決を受け、のちに投獄された。

p.177 社会主義思想の成立

2 「共産党宣言」(1848年) 歴史は階級闘争の歴史であり、万国のプロレタリアが団結して資本家を倒す共産主義革命が生じらうと主張している。

4 修正主義 プロレタリア独裁などではなく、議会制民主主義のなかで、社会主義の実現を図るべきであると主張している。

p.178~179 東方問題とロシアの改革

テーマの問い ロシアは、ギリシア正教徒の庇護やパン＝スラヴ主義を掲げつつ、不凍港を確保するために南下政策を推進した。極東や中央アジアでも、南への拡大の動きをみせている。一方、クリミア戦争以降は農奴解放令などの国内改革を推進したが、立憲制や議会政治の導入には至らなかった。

3 「ヴォルガの船曳きたち」 ボロをまとい、未来がみえない表情(だが1名だけ、服装も清潔で遠くをみている)で描かれている。ヴォルガの大自然を背景に、非人間的で過酷な重労働にあえぐ船曳きたちの、力強くたくましい民衆の姿が描かれている。

p.180~181 ヴィクトリア期のイギリス

テーマの問い バクス＝ブリタニカとよばれる繁栄期であり、国内改革を重視するグラッドストーンひきいる自由党と帝国の拡大・対外政策を重視するディズレーリひきいる保守党による二大政党政治が展開され、国内改革・対外進出がある程度のバランスを保ちつつ推進された時代であった。ただし、アイルランド問題に関しては、アイルランド自治法案をめぐる自由党が分裂し、問題は先送りされた。また、対外的にはアヘン戦争など中国への綿織物市場拡大や自国貿易推進をおこない、ロシアの南下を抑えつつ、スエズ運河会社の株買収(1875年)をおこなうなど、インドへの道の確保に努めた時代でもあった。

p.184～185 フランス第二帝政と第三共和政

テーマの問い ナポレオン1世の威光を活用しつつ統治されたナポレオン3世の第二帝政は、実際は農民・資本家・労働者のバランスを取る必要や、対外遠征の多さなどから安定していたとはいいがたい。一方でパリ市の大改造や産業の活性化などの政策は、現在のフランスの基盤ともなった。プロイセン＝フランス戦争の敗戦を受けての第三共和政は、ドイツに対する復讐心から様々な問題を抱え、国民統合をはかるためにフランス革命などの歴史的遺産を活用した。

ドーデ『月曜物語—最後の授業』からみるアルザス この小説から、アルザス地方ではプロイセン＝フランス戦争前は国語としてフランス語の教育がおこなわれていたこと、戦後の地がドイツ領となったことから、それが禁止されたことが読み取れる。**解説** アルザス地方ではドイツ語系アルザス語が話されていたが、近年ではフランス語を日常的に話す人がかなりの割合にのぼっている。

p.186～187 イタリアの統一とドイツの統一

テーマの問い イタリア統一は、サルデーニャ王国主導という形で、フランスのナポレオン3世やプロイセン＝オーストリア戦争などの国際情勢を利用しつつ、統一がすすめられた。領土的統一は、イタリア王国成立時には完成していなかった。ドイツ統一は、既にドイツ関税同盟という経済統合が図られてつづいた土壌に、プロイセン主導ですすめられたが、ドイツ帝国成立後も、国内の意識統一には課題が残された。

3・3 ビスマルクの鉄血演説(1862年) 自由主義ではなく、軍事力の強化によってドイツ統一を図るべきだとしている。また、誤りとしているのは、1848～49年に開かれたフランクフルト国民会議。**解説** 1862年にプロイセン首相となったビスマルクは、下院で軍事予算が否決されると、この「鉄血演説」をおこない、強引に軍制改革を推進した。なお、鉄は兵器、血は兵士を指しているとされる。

p.188～189 ドイツ帝国の成立とオーストリア＝ハンガリー帝国の動向

テーマの問い ビスマルクは内政では文化闘争などドイツ帝国成立を受け入れない勢力への対応に追われ、また社会主義者を弾圧しつつも社会保障政策を拡充させて労働者を国民として取り込み、高関税政策を実施するなどして工業化を推進した。対外的には、アルザス・ロレーヌ問題から、フランスの孤立を外交では推進した。これにより、フランスの国際的孤立が強まる一方、大規模な戦争はヨーロッパ中央部ではおこらなかった。

p.190 ラテンアメリカの独立

テーマの問い ラテンアメリカ諸国の独立の背景には、アメリカ合衆国の独立やフランス革命の影響、ナポレオン戦争により本国支配が弱まったこと、ハイチの独立などあげられる。独立後は、本国より派遣された役人がいなくなっただけで、クリオーリョ中心の社会構造にあまり変化はなく、経済的にはイギリスやアメリカ合衆国に従属した。

2 モンロー教書(1823年) アメリカ大陸とヨーロッパ諸国との相互不干渉を主張した。**解説** モンロー教書はロシアの南下やラテンアメリカ諸国の独立に対する牽制であった。当時は注視されなかったが、のちにアメリカ合衆国の外交の支柱となった。

2 独立後のラテンアメリカ経済 1. 独立後、ラテンアメリカ諸国は自由貿易政策のもとで、欧米諸国から工業製品を輸入し、自身は原料や食料の輸出に依存する形(表1)で経済を発展させた(モノカルチャー経済)。2. 日本よりラテンア

メリカ諸地域の方が豊かであったから。**解説** アルゼンチンは、表1にある食料のほか、冷凍技術の導入から牛肉輸出も盛んになってさらに豊かになり、南欧などから多くの移民が流入した。日本からもブラジルなど、日本より豊かであったラテンアメリカ諸国(表2)への移民があつた。だが、このラテンアメリカの輸出主導型経済成長は、のちに工業化の遅れなどにもつながった。

p.191 アメリカ合衆国の領土拡大

テーマの問い アメリカ合衆国の領土拡大は、獲得した領土を白人の住処とすべく西部開拓がセットです。そのなかで、民主主義の意識は広がるも、それは白人男性のみに限定された。また、未開発と開発の境目として意識されたフロンティアの西漸は、先住民の住環境や生存権を奪い、自然破壊などももたらした。

2 「アメリカの進歩、明白な天命」 右手に文明の書・左手に電線をもつ女神が東から西に歩いていることから、西部開拓が東から西へとすすめられ、フロンティア(女神はフロンティアをも表している)が西へとすすんでいく。女神の通った西側は、鉄道が通り、開拓者が入植して開墾がすすみ、畑なども作られている。この絵は西部開拓が白人による文明化であることを表現している一方、画面の西側には、開拓がすすむにつれて追いやられた先住民やバッファローが描かれており、暗に先住民が生活圏を奪われ、自然が破壊される様も描いている。**解説** この絵は「アメリカの運命、明白な天命」と題され、「明白な天命」ということばは、1845年ジョン＝L＝オサリヴァンが「年々増加する何百万人もの我が国民の自由な発展のために、神が割りあてたもうたこの大陸をおおって拡大していくという、我々の明白な天命」と述べてテキサス併合の正当性を主張した際に使用されたものである。

p.193 南北戦争

テーマの問い 奴隷問題が注目されるが、実際には西部開拓に伴い、経済基盤・貿易への認識・政治主張・の異なる商工業中心の北部と農業、プランテーション中心の南部の争いであった。北部が勝利したことにより、アメリカ合衆国は工業国への道を歩むこととなるが、黒人問題は置き去りにされ、法的な平等は達成されたとしても、実質的な平等とは程遠い状態に置かれた。

1 アメリカ「不」合衆国—黒人問題 風刺画では黒人奴隷が南北を切り裂いており、南北対立を表している。南北対立の背景には、西部の新州が奴隷州(南部)になるか自由州(北部)になるかは、連邦議会での優位、政治・経済の方向性に大きく影響を与えることがあった。

p.194～195 アメリカ合衆国の重工業化と大国化

テーマの問い 「金びか時代」といわれた南北戦争後のアメリカ合衆国では、経済発展の裏で、労働問題や独占資本の形成と政治的汚職、安い労働力として移民が必要とされる一方、WASPとは異なる移民に対する排除・排斥の動きが強まるなどの問題を抱えた。

p.200～201 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容

テーマの問い 第二次ウィーン包囲の失敗はオスマン帝国の領土縮小の契機となり、以降ヨーロッパ列強の攻勢と諸民族の自立の動きが活発化した。特にナポレオンのエジプト侵入、ロシアの南下政策、そしてインドを植民地化したイギリスの中東進出は、西アジア諸国の様々な抵抗運動や改革運動を生み出していった。

4・1 タンジマート タンジマートによってオスマン帝国は

法治主義に基づく近代国家へと内実を深めていったが、保守派の抵抗も強く、十分な成果があがらなかったうえ、その精神は中央ではともかく、地方ではまったく理解されなかった。また、ヨーロッパ工業製品の流入が地域産業を没落させ、外国資本への従属をすすめるなど、かえって民衆の不満を拡大させた。

p.202～203 南アジア・東南アジアの植民地化

テーマの問い インドを直接統治するために東インド会社を解散し、ウィクトリア女王がインド皇帝に即位してインド帝国を成立させた。また、統一的な刑法の制定や高等裁判所の設置などの司法体制を整備するとともに、従来の強圧的政策からインド人同士の対立をつくり出す「分割統治」に政策を転換した。

3 インド大反乱 インド人民の不統一、目標が旧秩序であったこと、指導力がなく組織が未熟で内紛が絶えなかったこと、などをあげている。

5 東南アジアへの侵略と統治 タイのチュラロンコン国王は、イギリスとフランスの勢力の緩衝地帯にあった立地を生かし、領土を一部割譲したとはいえ両国の勢力均衡策をたくみにとると同時に、外国人顧問をまねいて行政・司法改革をおこない、外国への留学を奨励するなど近代化に成功し、植民地化を回避した。

p.204～205 東アジアの激動①

テーマの問い アヘン貿易の利益を守るとともに、清に対し武力によって広州以外の港を複数開港させ、自由貿易を実現すること。

3 アヘンの流入と取締り 清ではアヘンの吸飲や輸入を禁止していたが、三角貿易によってアヘンが大量に流入して中国人の吸飲者が増加するとともに、大量の銀が国外に流出した。その結果、国内では銀の価格が高騰し、税金が銀納であった中国民衆にとり実質増税となって生活を圧迫した。

4 不平等条約の締結

南京条約(1842) 対イギリス

第2条 広州、厦門、福州、寧波、上海の開港と居住権の保証

第3条 香港島の割譲

第5条 公行の廃止と自由貿易の実施

この他、中国商人の負債と没収されたアヘンの補償費、そして賠償金の支払いが決められ、対等国の原則が確認された。

虎門寨追加条約(1843) 対イギリス

第8条 清にとり片務的な最恵国待遇

この他、領事裁判権(治外法権)の承認(五港通商章程：虎門寨追加条約の一部分として付随)、協定関税制の導入等が定められた。

望厦条約(1844) 対アメリカ

第2条 協定関税制(関税自主権の喪失)

内容は上記のイギリスとむすばれた不平等条約とほぼ同じ。同様の条約をフランスとも結んだ(黄埔条約・1844)。

p.206～207 東アジアの激動②

テーマの問い 洋務運動では富国強兵をめざし、西洋の学問や技術を導入して兵器や紡績などの近代的な工場や鉱山開発、汽船会社の設立、鉄道や電信線の敷設などが推進された。しかしあくまで「中体西用」の立場にあり、清の伝統的な国家体制の維持するためのもので国家や社会全体の変革をめざすものではなかった。

p.208～209 東アジアの激動③

テーマの問い 清は朝鮮を朝貢国としてとらえて旧来の東アジア

の秩序のなかに位置づけていた。対して日本は朝鮮が独立国であると主張していたが、それは清の影響力を排して日本が進出するための方便という側面が強かった。

3 東アジア国際秩序の再編 富国強兵をめざし、工業や軍事の近代化を図ったのは同じだが、清が国体の維持に終始したのに対し、日本は大日本帝国憲法の発布(1889年)や二院制議会の開設(1890年)など、国家や社会制度の改革まで推進したところが異なった。

5 巨人に挑む武者 日本の勝利は東アジアにおける日清両国の勢力を逆転させただけでなく、清に対して「眠れる獅子」とこれまでひそかに畏怖していた列強が、本格的に侵略を開始する端緒となった。また、戦後日本は朝鮮への圧力を強めて大陸侵略の足場を築こうとして、極東で南下をめざすロシアと深刻な対立をひきおこした。

p.212～213 帝国主義と列強の展開

テーマの問い 欧州中心部では戦争がおこらず、19世紀末から好景気が持続してパリで万国博覧会が開催されるなど大いに繁栄し、首都を中心に成熟した市民文化が社会に広く定着して、そこから現代型の大都市大衆文化が生まれつつあった。

4 帝国主義の成立 非ヨーロッパ地域の文化への軽視が広まり、「白人の責務」として後進民族にすぐれたヨーロッパ文明をもたらすのは白人の使命であり、すぐれた民族が劣った民族を支配するのは自然の法則にかなうものだと考えられていた。背景には非ヨーロッパ地域の制圧や支配を容易にする情報・交通手段そして軍事力が圧倒的に優勢という状況があった。

5・1 1878年の世界 1878年ベルリン会議が開催されるなど、列強間の帝国主義対立があったとはいえ、戦争はバルカン半島やアジアなどヨーロッパの周辺諸国に限定されていた。また、国内では、次第に労働運動が活発化し、イギリスでは労働組合法制定(1871)、ドイツでは社会主義者鎮圧法成立(1878)、フランスではサンディカリズムを推進するフランス労働総同盟結成(1895)、ロシアではアレクサンドル2世の暗殺(1881)などのテロリズムの横行、などがあつた。

p.214～215 世界分割と列強対立

テーマの問い 列強が資源の獲得、経済的利害、戦略的関心などから、暴力的に現地の社会や文化・経済を破壊したため、現地の人々は、地域の自立や固有の文化を守ろうとして抵抗した。また、人為的に定められた境界線は現地の人々のつながりや交易網を破壊したので、その後の住民の自立や独立に大きな障害となった。

1 ローズ アフリカで植民地拡張政策をおしすすめたローズが、イギリス領だったエジプトと南アフリカを踏みつけ、ライフルを背負い電信線を南北に敷設している。イギリスがめざしたアフリカ縦断政策を示している。

4 棍棒を振り回すセオドア＝ローズヴェルト アメリカの国益のためなら軍事介入も辞さない、という帝国主義外交を示している。「穏やかな口調に加えて、棍棒をもって行け。そうすればうまくいく。」というセオドア＝ローズヴェルトの言葉から「棍棒外交」といわれた。実際に、ドミニカ、ハイチ、メキシコなどのカリブ海地域に海兵隊が派遣され、軍事的・経済的な干渉がおこなわれた。

p.216～217 東アジア諸国の改革と民族運動

テーマの問い 領土の割譲のほか、鉄道敷設や鉱山採掘などの利権獲得、沿岸の要地を租借、列強ごとに利権の優先権を清に認めさせ勢力範囲を定める、などの方法がとられた。

3 康有为『日本政変考』 日本明治維新をモデルとし、国

会開設や憲法制定による立憲君主制の樹立をおしすすめることで清を立て直そうとした。

4 義和団事件に出兵した8カ国連合軍 Q 当時イギリスは南アフリカ戦争で、アメリカはフィリピン戦争で忙殺されており、地理的に近い日本とロシアが主力となった。

6 孫文の残したことは Q 政府には全国を统一的に支配する力はなく、列強の支持を受けた軍閥が各地で割拠して互いに抗争し、北京政府の実権を争奪する不安定な状況であった。

p.218～219 南・東南・西アジア諸国の改革と民族運動

テーマの問 宗主国は植民地支配に対する抵抗運動を弾圧してその運動を挫折させたが、その多くはその後の独立運動につながった。

3・1 インドの宗教分布とベンガル分割 Q ベンガル州をヒンドゥー教徒多住地域とイスラーム教徒多住地域に分割し、宗教対立を利用して民族運動の高まりをそらそうとした。

5 青年トルコ革命 Q もともとムスリム＝トルコ人の主導による帝国の再建を主張するグループと帝国内の諸民族の融和を重視するグループの対立があったが、革命後内外の情勢の変化にともなって内閣は反動化し、不安定な政局のもとで国内世論も分裂した。その後ロシア領中央アジアからの亡命トルコ人の流入にともないパン＝トルコ主義を標榜するようになった。

p.220～221 第一次世界大戦

テーマの問 バルカン半島における民族対立と列強の利害対立からサラエヴォ事件がおり、第一次世界大戦が始まった。この戦争は史上初の総力戦で、戦場で戦う兵士以外に女性や植民地も何らかの形で戦争にかかわった。

3 出征するドイツ兵 Q 戦争の終結は1918年11月11日、すなわち4年後のクリスマスによく帰ることができた。

4 ポスターにみる第一次世界大戦 Q 女性や子どもが戦意高揚などに利用されている。その背景には、「強い男を支える女子ども」という旧来の価値観があったと考えられる。

4 物量戦 Q 写真は、ソンムの戦いでイギリス軍が1日で使用した砲弾の菓莢である。

p.222～223 ロシア革命

テーマの問 社会主義国家の成立は、資本主義国家とは別の可能性や資本主義の問題点を修正する契機となった。しかし、革命の波及を恐れる資本主義国家は、軍事干渉をおこなって革命の転覆をはかった。

4 新経済政策(ネップ)と物価 Q パンの価格が15%割引であるということ。

p.224～225 ヴェルサイユ体制下のヨーロッパ

テーマの問 国際連盟というそれまでの同盟関係とは異なる集団安全保障機関による世界平和の構築や不戦条約などによる軍縮の気運が高まった。大戦後、欧米を中心に女性の社会進出がすすみ、参政権を求める運動も高まった。

2 ヴェルサイユ条約 Q ドイツで作られたヴェルサイユ条約に反対するポスター。左から、領土・人口・石炭・移民・穀物生産など失われるものとその減少率が示されている。また、左下にすべての海外植民地を失ったことも示されている。

女性の社会進出 Q 女性も男性と同じく21歳以上で選挙権を得られることを求めている。

p.226～227 1920年代のソ連とアメリカ合衆国

テーマの問 ソ連では、レーニンの死後に権力を掌握したスターリンの下で、一国社会主義に基づく農業の集団化や重工業化がすすめられた。アメリカ合衆国では、都市を中心に大量生産・

大量消費をもととした大衆文化が形成された。一方で、移民排斥や人種差別団体の復活など、社会の保守化もすすんだ。

2 移民排斥 Q 左はアメリカ西海岸に進出する日系移民、右はそれをくい止めるアメリカ合衆国をあらわしている。

3 1920年代の世相 Q ジャズ音楽、ダンスホール、サーカス、映画、プロスポーツ(ここではボクシング)観戦など。

p.228～229 東アジアの民族運動

テーマの問 東アジアにおける反植民地・反帝国主義的性格の民族運動は、社会主義的な性格の有無を問わず、日本の東アジア進出に対する反発を前面に出してすすめられた。

4 第1次国共合作 Q 左から、中国国民党旗・孫文の肖像・南京国民政府旗(のちの中華民国国旗)が掲げられている。

p.230～231 インド・東南アジア・西アジアの民族運動

テーマの問 各植民地の領域内の人々を、インドネシア人・トルコ人といった一つの民族とみなして、独立運動をすすめた。インドネシアやベトナムの民族運動は、社会主義勢力が中心となっていた点に特徴がみられる。

3 インドネシア共産党 Q 宗主国の言語であるオランダ語で書かれている。

4・2 ケマル＝アタテュルク Q 西洋の文化や価値観も必要な部分は受けいれるという側面。

p.232 世界恐慌

テーマの問 世界的な農業不況やアメリカ合衆国での過剰生産による経済の停滞が、株価の大暴落を引き起こした。恐慌におちいったアメリカ合衆国がヨーロッパなどから資本を引き上げたことでヨーロッパ諸国も恐慌にみまわれた。

1・1 イギリスへの恐慌の波及 Q 直接的には恐慌の影響で操業を停止した工場をあらわしているが、その影響で失業者が増えていることもあらわしている。

p.233 日本の中国侵攻

テーマの問 蒋介石ひきいる国民政府は、国内の共産党勢力を打倒することを優先していたが、1936年の西安事件を機に第2次国共合作が成立して内戦を停止し、日本の侵攻に対して統一して戦うようになった。

p.234～235 ファシズム諸国の侵略

テーマの問 第一次世界大戦後の経済の低迷や共産党勢力の台頭に不安感を高めた人々に対して、自民族の優越性を強調するなどの手段で独裁的な権力を握った。その後、自国民の生存圏を拡大するために対外侵攻をすすめた。その過程で、共産主義者やユダヤ人などを国家統合の障害物とみなして、迫害を強めていった。

4 ヒトラーのポスター Q ヒンデンブルク大統領の任命により首相となった、すなわち大統領に従うという立場から、総統としてドイツの最高指導者という立場にかかわった。

5 「ゲルニカ」 Q 雌牛はファシズム(フランコとそれを支援するドイツ・イタリア)、馬は人民(それに抵抗する人民戦線側)のシンボルといわれる。

p.236～237 第二次世界大戦①

テーマの問 ドイツの侵略行為に対し、宥和政策をとり続ける英仏の態度に不信感をもったソ連が、ドイツと不可侵条約を結んだことで、ドイツはポーランド侵攻に踏み切ることができた。これにより、ポーランドと同盟を結んでいた英仏もドイツに宣戦し、ドイツと同盟を結んでいたイタリアも英仏と戦争することとなった。

p.238～239 第二次世界大戦②

テーマの問い 日本は長引く日中戦争の戦局を開閉するため、日独伊三国同盟を結んで仏領インドシナに侵攻したが、アメリカ合衆国による経済制裁を引き起こした。これを解決するための日米交渉が行き詰まったため、対米英開戦に踏み切った。三国同盟側は、当初優位に戦局をすすめていたが、ミッドウェー海戦やスターリンググラードの戦いの敗北により退勢に転じ、イタリア・ドイツ・日本の順で連合国に降伏した。

1 大東亜共栄圏すごろく 遊びを通じて大東亜共栄圏という考え方と日本の優越性を、子どもの意識にもすり込む意図もあったため。

1 真珠湾攻撃 日本軍の奇襲攻撃を非難することで、アメリカ合衆国の戦争を正当化し、その記憶を失わせないため。

p.240～241 戦後世界秩序の形成

テーマの問い 第二次世界大戦後の世界では、国際平和を求める試みがすすめられた。一方、大戦末期からあらわれ始めた米英とソ連の対立から米ソ両大国による冷戦構造の形成もすすんでいった。

3 チャーチルのフルトン演説 ソ連が東ヨーロッパへ勢力を拡大して西ヨーロッパと分断しようとしていること。

p.242～243 アジア諸地域の独立

テーマの問い 多くの地域では、宗主国との間で独立戦争がみられた。また、冷戦の影響で、朝鮮半島やベトナムのように国家が分断される地域もあらわれた。

2 横浜の中心街の焼け跡 日本に進駐しているアメリカ軍の水兵である。

6 ガンディー暗殺 ガンディーの姿勢に反感をもったヒンドゥー教過激派によって殺害された。

p.244 朝鮮戦争

テーマの問い 朝鮮戦争は、冷戦の激化を体現する事件の一つであった。アメリカは、日本を西側陣営に組み込むため、独立後も日米安全保障条約によって日本駐留を継続した。

2 朝鮮特需 アメリカ軍が使用する兵器を作っている。

p.245 米ソ冷戦の激化

テーマの問い 東西両陣営による同盟関係の強化や軍拡競争は、一方で反核運動も生み出した。

2 「パパは何でも知っている」 アメリカの豊かな白人中産階級と当時理想とされていた家父長的な家族像を放映することで、日本も豊かな社会を実現したいならアメリカが必要であるということをしらせるため。

p.246 西欧の経済復興

テーマの問い 西ヨーロッパ諸国は、アメリカ合衆国との同盟関係を維持する一方、経済復興や国際的地位を固めるためにヨーロッパ統合を志向するようになった。

3 西ドイツの再軍備 アメリカ製のジェット戦闘機。アメリカが自国製の兵器を西側諸国に供与することは、軍需産業の要求にこたえる面もあった。

p.247 「雪どけ」

テーマの問い 「雪どけ」は、米ソの接近をもたらした。一方、東ヨーロッパでは非スターリン化がすすんだが、それに対してソ連は武力弾圧を強行することもあった。

ベルリンの壁 東西ドイツ成立後、西側の飛び地ともいえる西ベルリンを経由して亡命する東ドイツ国民の増加が問題となったため。

p.248～249 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り

テーマの問い 第三世界の台頭は、欧米諸国以外も国際社会に大きな影響力をもちうることを示した。このような状況下でおこったキューバ危機をきっかけに米ソは平和共存路線を模索するようになった。

1 アジア＝アフリカ会議 開催国インドネシアのスカルノ大統領。

1 第1回非同盟諸国首脳会議 非同盟とは、米ソいずれの陣営にも属さず、中立主義と反植民地主義の立場に立つという意味である。

p.250～251 アメリカ合衆国・ソ連・中国の動揺

テーマの問い 公民権運動やベトナム反戦運動による既存の価値観に対する疑問の高まりが、アメリカ合衆国の動揺を招いた。東ヨーロッパでみられた「プラハの春」やルーマニアの自主外交路線、中ソ論争の公然化など、社会主義の枠内でもソ連から距離を置く傾向は、ソ連の動揺を招いた。中国では、大躍進の失敗で失脚した毛沢東がプロレタリア文化大革命によって権力の奪還をめざし、国内を混乱におとしいれた。

2 コカコーラの自動販売機 自動販売機に“WHITE CUSTOMERS ONLY”（白人専用）と書かれている部分。

3 [ブレジネフ＝ドクトリン] 社会主義国諸国全体の安全が優先されると考えている。

3 五月革命 花をかたどっている風船は、実力による運動弾圧を非難し、対話による解決を求めていることの象徴とみることができる。

p.252～253 ベトナム戦争、第三世界の開発独裁

テーマの問い 国際的な反戦運動の高まりや戦争の長期化による経済の悪化によって、アメリカ合衆国の国際的な威信が低下した。第三世界では、軍勢力を背景にした独裁政権が、国内の民主化勢力などを暴力的に弾圧して経済成長政策をすすめた。このような政策を開発独裁という。

1・3 北爆 沖縄とグアム島が重要な発進基地の役割を担っていた。

1・3 枯葉作戦 枯葉作戦に用いた化学物質による先天的な障害をもつ子どもを多く生み出す結果をもたらしたため。

p.254～255 石油危機と世界経済の再編

テーマの問い 石油を大量消費する産業や生活スタイルを改めて省エネルギー化を前提とした経済成長の可能性が追求されるようになった。また、人々は環境問題への注目を強めるようになった。

2 日米貿易摩擦 当時、家電製品とともに貿易摩擦の象徴とみなされていた日本製の乗用車。

3 新自由主義の担い手たち 左から、日本の中曽根首相、イギリスのサッチャー首相、アメリカのレーガン大統領。

p.256～257 社会主義世界の容容

テーマの問い 計画経済の硬直化によるもの不足や資本主義国と比べて民主化のすすんでいない状況に不満を高めた国民の行動が社会主義諸国の改革路線をうながし、最終的には社会主義諸国自体の体制転換や解体をもたらした。

2 リトアニアの独立運動 「1920・レーニン」はロシア革命後の独立、「1939・スターリン」は独ソ不可侵条約後のソ連による併合をあらわしている。そして、「1990・ゴルバチョフ」とは、独立をソ連が認めるのかという問いかけとなっている。

2 資本主義の勝利? 資本主義の勝利は、一面で社会格差の放置となる恐れがあることを風刺している。

p.258～259 グローバリゼーションの進展

テーマの問い 冷戦の終結や情報通信革命の進展により、世界中の人々が同じ情報を共有できる可能性が高まったことがある。一方で、グローバリゼーションの進展による世界の均質化に対する抵抗運動も引き起こした。

4・3 グローバリゼーションへの抗議 **Q** ハンバーガーは、グローバリゼーションの中心とみなされたアメリカ合衆国の代表的な料理で、ファストフードチェーンによって世界中に広がっている。すなわち、グローバリゼーションの象徴と考えられていたため。

p.260～261 途上国の民主化

テーマの問い 開発独裁によって一定の経済成長を果たした途上国の人びとは、次に民主的な社会を望むようになり、1980年代ころから途上国の民主化がすすんだ。

p.262～263 アジア社会主義国家の変容

テーマの問い 社会主義をかかげて国家を強引に統合する一方で、市場経済の導入による経済成長政策をすすめて、経済面での国民の不満をかわそうと試みている点がみられる。

1・2 経済特区の設置 **Q** アメリカ合衆国を象徴する衣料の一つであるジーンズを製造している。

p.264～265 地域紛争の激化と貧困問題

テーマの問い 資本主義や社会主義といった政治や経済の対立に代わって、宗教や民族の違いによる対立が地域紛争の大きな原因となっている。

p.266～267 特集 バレスチナ問題

3 バレスチナ問題の始まり **Q** 旧オスマン帝国領について、フセイン・マクマホン協定ではアラブ人の独立国家、サイクス・ピコ協定では英仏露による勢力範囲の分割、バルフォア宣言ではユダヤ人国家の民族的郷土の設立を認めている。これらは、特にバレスチナ地域において深刻な課題を抱えていた。

詳説世界史図録

地図問題 & 白地図 解答

2 古代オリエント世界

- 1 (1) ①イラン ②サウジアラビア
③トルコ ④シリア
(2) ①カフカス ②ザグロス
③アナトリア ④黒 ⑤紅
⑥ペルシア ⑦ユーフラテス
⑧ナイル
- 2 (1) ①バビロン第1王朝
②ヒッタイト ③ミタンニ
(2) ①バビロン ②ティルス
③テル = エル = アマルナ
④テーベ
(3) ①カデシュ ②出エジプト
- 3 (1) ①リディア ②新バビロニア
③メディア
(2) ①サルデス ②ニネヴェ
③イェルサレム ④エカパタナ
(3) アッシリア

3 ギリシア世界・ローマ世界

- 1 (1) ①エーゲ ②黒 ③クレタ
④シチリア ⑤ペロポネソス
⑥イベリア
(2) ①アテネ ②スパルタ
③ミレトス ④シラクサ ⑤ローマ
⑥カルタゴ ⑦ビザンティオン
- 2 (1) ①セレウコス ②プトレマイオス
(2) ①アンティオキア
②アレクサンドリア
(3) ①カイロネア ②イッソス
③アルペラ
- 3 (1) ①バルティア ②ゲルマニア
③ガリア
(2) ①アクティウム ②エデッサ
③ロンディニウム ④ルティア
⑤メディオラスム ⑥ウインドボナ
⑦ビザンティオン
(3) ①ディオクレティアヌス
②テオドシウス

4 インドの古典文明・東南アジアの諸文明

- 1 (1) ①アフガニスタン ②パキスタン
③ネパール ④バングラデシュ
(2) ①インドス ②ガンジス
③カイバル ④デカン
- 2 (1) ①クシャーナ ②サータヴァーハナ
(2) ガンダーラ
- 3 (1) ①ナランダー ②アジャンター
(2) エフタル (3) ③法顕 ④玄奘
(4) ①唐 ②ヴァルダナ
③チャールキヤ
- 4 (1) ①ドヴァーラヴァティー
②チャンパー ③シュリーヴィジャヤ
(2) ①ポロブドゥール
②アンコール = ワット
(3) 義浄

5 中国の古典文明・南北アメリカ文明

- 1 (1) ①天山 ②ゴビ
③タクラマカン ④淮
⑤アムール ⑥モンゴル
⑦チベット
(2) ①西安 ②洛陽 ③広州
④敦煌 ⑤ラサ ⑥平壤
- 2 (1) 冒頓単于
(2) 張騫
(3) 武帝
(4) ①敦煌 ②楽浪 ③南海
④日南
- 3 (1) ①アマゾン ②アンデス
③ラブラタ ④パナマ
⑤ユカタン ⑥メキシコ
(2) ①アステカ ②インカ
(3) マヤ
(4) ①テノチティトラン
②クスコ ③マチュ = ピチュ

6 内陸アジア世界・東アジア世界の形成

- 1 (1) ①天山 ②クンリン
③バミール ④カザフ
(2) ①亀茲(クチャ)
②疏勒(カシュガル)
③サマルカンド ④敦煌
- 2 (1) ①鮮卑 ②氐
(2) ①東晋 ②北魏
(3) ①淝水
(4) ①平壤 ②洛陽 ③建康
- 3 (1) ①隋 ②高句麗 ③突厥
(2) 煬帝
(3) ①吐蕃 ②新羅 ③南詔
(4) 都護府
(5) 節度使

7 イスラーム世界の形成と発展

- 1 (1) ウマル/ササン
(2) アッバース
(3) 後ウマイヤ
- 2 (1) ①ムワッヒド ②アイユーブ
③ゴール ④西遼
(2) ①コルドバ ②カイロ
③バグダード ④コンヤ
⑤ベラサゲン
(3) サラディン(サラフ = アッ
ディーン)
- 3 (1) ①アトラス ②サハラ
③カラハリ ④ニジェール
⑤タンガニカ
(2) クシェ (3) ガーナ (4) マリ
(5) スワヒリ

8 ヨーロッパ世界の形成と発展

- 1 (1) ①カフカス ②ビレネー
③スカンディナヴィア
④バルカン ⑤パンノニア
⑥ドナウ ⑦ライン ⑧セース
⑨ボスフォラス
- 2 (1) ①ノヴゴロド ②ノルマンディー
(2) マジャール
(3) ヘースティングス
- 3 (1) ①ハンザ ②フランドル
③シャンパーニュ
(2) ①ベルゲン ②ノヴゴロド
③ロンドン ④ブリュージュ
(3) ①ヴェネツィア ②ジェノヴァ
③フィレンツェ ④アウクスブルク
- 4 (1) ①カスティリヤ ②アラゴン
③ハンガリー ④ポーランド
(2) カルマル (3) リトアニア
(4) 金印勅書

9 内陸アジア世界・東アジア世界の展開

- 1 (1) ①カラハン ②サーマーン
③ブワイフ ④ファータマ
⑤後ウマイヤ
(2) ①ガズナ ②セルジューク
③ムラービト
(3) ①奴隷 ②イル = ハン
③マムルーク
- 2 (1) ①高麗 ②金 ③西夏
④西遼(カラキタイ) ⑤大理
⑥大越 ⑦バガン
(2) 靖康の変
(3) ①開城 ②臨安(杭州)
③ラサ ④昇龍(ハノイ)
- 3 (1) ①バトゥ ②フラグ
③チンギス = ハン ④フビライ
(2) マルコ = ボーロ
(3) ①元 ②イル = ハン
③キプチャク = ハン ④陳

10 アジア諸地域の繁栄①

- 1 (1) 鄭和/永楽 (2) アユタヤ
(3) オイラト (4) 土木
(5) 韃靼 (6) 倭寇
- 2 (1) 山海関
(2) ①三藩の乱 ②台湾
(3) 藩部
(4) ①ジュンガル ②回
(5) ①ネルチンスク ②キャフタ
- 3 (1) 茶 ②景德鎮
(2) 蘇州 (3) 塩
(4) ①徽州(新安) ②山西

11 アジア諸地域の繁栄②

- 1 (1) ①ニコポリス ②モハーチ
③ウィーン ④ブレヴェザ
(2) ①アンカラ
②コンスタンティノープル
(3) ①マムルーク ②サファヴィー
(4) フランス
- 2 (1) シク (2) ヴィジャヤナガル
(3) アクバル ④アグラ
(4) アウラングゼーブ ⑤マラーター
(5) ①マドラス ②ボンベイ
③カルカッタ
- 3 (1) ①マカオ ②マニラ
③アンボイナ ④パタヴィア
(2) ①タウングー ②アユタヤ
(3) マラッカ
(4) ①オランダ ②ポルトガル
③スペイン

12 近世ヨーロッパ世界の形成①

- 1 (1) ①ディアス ②コロンブス
③ヴァスコ = ダ = ガマ
④アメリカ = ヴェスプッチ
⑤マゼラン ⑥ドレーク
(2) ①トルデシリヤス
②サラゴサ
- 2 (1) ①フィレンツェ ②ミラノ
③ローマ ④ヴェネツィア
⑤ジェノヴァ
(2) ① = ②: ボッティチェリ
③ = ④: レオナルド = ダ = ヴーリン
⑤ = ⑥: ミケランジェロ
⑦ = ⑧: ラファエロ
(3) メディチ
(4) マキアヴェリ
- 3 (1) メディチ/フッガー
(2) ①: e・② ②: a・⑤
③: b・④ ④: c・③, f・⑥
⑤: d・①

13 近世ヨーロッパ世界の形成②

- 1 (1) ①アウクスブルク ②ナント
(2) ①スレイマン1世 ②カール5世
(3) ①レバント ②アルマダ
(4) エリザベス1世
- 2 (1) ①マーストームア
②ネーデル
(2) クロムウェル
(3) メアリ2世/ウィリアム3世
- 3 (1) ベーメン
(2) デンマーク
(3) グスタフ = アドルフ
(4) リシュリユー
(5) ウェストファリア
(6) ①スイス ②オランダ

14 近世ヨーロッパ世界の形成③

- 1 (1)カルロヴィッツ
(2)⑥ シュレジエン (3)アーヘン
(4)フベルトゥスブルク
(3)フリードリヒ2世/サンスーシ
- 2 (1)イヴァン4世 (2)ベテルブルク
(3)ネルチンスク (4)プガチョフ
(5)エカチェリーナ2世
- 3 (1)ポーランド = リトアニア
(2)フリードリヒ2世
(3)あ・い (4)コシュエシコ
(5)③ キエフ (6)クラクフ
(7)ボズナニ (8)ミンスク

15 近世ヨーロッパ世界の展開

- 1 (1)③ ボストン (2)フィラデルフィア
(3)ケベック (4)セントルイス
(2)アン女王
(3)② ニューイングランド
(4)リイジアナ
(5)フレンチ = インディアン
- 2 (1)① 茶 ② 綿織物 ③ 奴隷
(4)砂糖 ⑤ タバコ
(2)② ニューヨーク (3)リヴァプール
(4)ケーブ (5)バタヴィア
(6)アンボイナ
(3)ブラッシー

16 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立

- 1 (1)ノーフォーク
(2)開い込み(エンクロージャー)
(3)ステイヴンソン
(4)⑥ マンチェスター
(5)リヴァプール
(6)ランカシャー
(7)④ パーミンガム (8)グラスゴー
- 2 (1)④ マサチューセッツ
(2)ペンシルヴェニア
(3)ヴァージニア
(4)② レキシントン・コンコード
(5)サトウガ ⑥ ヨークタウン
(3)1783/パリ (4)スペイン
- 3 (1)③ トラファルガー (2)アウス
テルリツ (3)ライプツィヒ
(4)ワーテルロー
(5)② アミアン (6)ティルジット
(3)大陸封鎖
(4)② ライン同盟
(5)ウエストファリア王国
(6)ワルシャワ大公国

17 欧米における近代国民国家の発展

- 1 (1)ブルボン
(2)② ハンブルク (3)フランクフルト
(4)③ プルシェンシャフト
(5)カルボナリ ⑥ デカプリスト
(4)② ベルギー (5)ポーランド
(6)青年イタリア
- 2 (1)② ボスフォラス (2)ダーダネルス
(3)③ セヴァストポリ
(4)サン = ステファノ
(5)④ ボスニア・ヘルツェゴヴィナ
(6)イギリス
- 3 (1)関税同盟 (2)フランクフルト
(3)ソルフェリーノ (4)ガリバルディ
(5)③ サヴォイア (6)ニース
(7)未回収のイタリア
(8)ナポレオン3世 (9)バイエルン

18 アジア諸地域の動揺①

- 1 (1)② カルロヴィッツ
(2)③ キュチュク = カイナルジャ
(4)アドリアノーブル
(5)ロンドン
(2)トルコマンチャーイ
(3)ボスフォラス (4)レセップス
(5)ワッハーブ (6)ウラービー
- 2 (1)③ ボンベイ (2)マドラス
(3)カルカッタ
(4)⑥ カナティック (5)ブラッシー
(6)③ マイソール (7)マラーター
(8)シク
(4)徴税
- 3 (1)③ ユエ (2)シンガポール
(3)マラッカ (4)バタヴィア
(5)アンボイナ
(2)② 阮 (3)海峡 (4)強制栽培
(5)フランス/オランダ
(6)チュラロンコン(ラーマ5世)
(7)コンバウン

19 アジア諸地域の動揺②

- 1 (1)南京
(2)③ 漢口 (4)南京 (5)天津
(3)② 太平天国 (4)捻軍
(5)イスラーム教徒
(4)ペリー
(5)③ 曾國藩 (6)李鴻章
- 2 (1)③ ネルチンスク (2)キャフタ
(3)イリ
(2)② アイゲン (3)北京
(4)シベリア (5)ウラジヴォストーク
- 3 (1)総理各国事務衙門
(2)洋務運動 (3)樺太・千島交換
(4)江華島事件 (5)清仏
(6)天津 (7)下関

20 帝国主義とアジアの民族運動①

- 1 (1)② リヴィングストン (3)スタンリー
(2)コンゴ (3)④ マプティエ
(4)サモリ = トゥーレ
(5)南アフリカ(ブル)
(4)アドワ
(5)イギリス/フランス/ドイツ/イタリア
(6)ファシヨダ (7)セシル = ローズ
- 2 (1)② アボリジニー (3)マオリ
(2)リリウオカラニ (3)スペイン
(4)プラット条項 (5)バナマ
(6)ドイツ
- 3 (1)③ 旅順 (2)威海衛 (3)膠州湾
(4)② ドイツ (5)イギリス
(6)フランス
(3)アメリカ (4)ハルビン
(5)義和団事件 (6)日本

21 帝国主義とアジアの民族運動②

- 1 (1)① 孫文 (2)袁世凱 (3)新軍
(4)宣統
(2)③ → ④ → ⑤ → ⑥
(3)③ 北京 (4)南京 (5)広州
(6)重慶
(4)② 湖北 (3)四川 (4)直隸
- 2 (1)イギリス/オランダ/フランス/イタリア/アメリカ
(2)アギナルド
(3)③ 同盟会 (4)④ 立憲
(5)ミドハト
(4)② 義和団 (3)ドンズー
(5)カルカッタ
(6)アフガニー

22 二つの世界大戦①

- 1 (1)① ギリシア (2)モンテネグロ
(3)セルビア (4)ブルガリア
(2)サラエヴォ
(3)③ タンネンベルク (4)マルヌ
(5)イーブル (6)ユトランド (7)ソム
(4)③ 毒ガス (5)タンク(戦車)
- 2 (1)① ルール (2)ラインラント
(3)ロレーヌ (4)アルザス
(2)ポーランド
(3)ヴァイマル (4)ジュネーヴ
(5)ロカルノ/シェトレゼマン
(6)② ラトヴィア (3)ポーランド
(4)チェコスロヴァキア
(5)ユーゴスラヴィア
- 3 (1)セーヴル (2)ローザンヌ
(3)ワフド
(4)② イギリス (3)フランス
(5)③ レザー = ハーン (6)ファイサル
(7)イブン = サウード

23 二つの世界大戦②

- 1 (1)ザール (2)ラインラント
(3)ストレーザ
(4)② 人民戦線 (5)フランコ
(6)ズデーテン
(7)③ エチオピア (8)アルバニア
- 2 (1)フィンランド
(2)ヴァイシー/ド = ゴール
(3)スターリングラード
(4)バドリオ (5)ノルマンディー
(6)④ ヤルタ (7)ボツダム
- 3 (1)盧溝橋 (2)重慶
(3)日ソ中立条約
(4)ミッドウェー (5)サイパン

24 冷戦と第三世界の独立

- 1 (1)イギリス/ソ連/フランス/アメリカ
(2)② ソ連 (3)ポーランド
(4)ユーゴスラヴィア
(5)鉄のカーテン
(6)チェコスロヴァキア
(7)ヨーロッパ連合(ブリュッセル)
- 2 (1)② インドシナ (3)朝鮮
(4)ベルリン (5)パレスチナ
(2)トルコ (3)イラン
(4)ワルシャワ
(5)アメリカ/オーストラリア/ニュージーランド (6)キューバ
- 3 (1)② エチオピア (3)南アフリカ
(4)リベリア
(5)③ ガーナ (6)ギニア (7)リビア
(3)エンクルマ (4)1960
(5)ナセル (6)コンゴ
(7)アルジェリア

25 現在の世界

- 1 (1)チェルノブイリ
(2)ゴルバチョフ
(3)③ リトアニア (4)ラトヴィア
(5)エストニア
(4)④ ウクライナ (5)ジョージア
(6)グルジア (7)ウズベキスタン
(8)カザフスタン
- 2 (1)② チェット (3)キプロス
(4)バスク地方 (5)クルド
(6)チェチェン (7)南スーダン
(2)④ アンゴラ (3)クウェート
(4)9・11 (同時多発テロ)
(5)シリア
(3)ユーゴスラヴィア (4)アラブの春
- 3 (1)国連総会
(2)② シナイ (3)ガザ
(4)ヨルダン川西岸 (5)ゴラン
(6)ヨルダン (7)レバノン
(4)③ ベイルート (5)イエールサレム
(6)テルアビブ